

授 業 概 要

科目名	病態生理演習	担当者	後藤 治美	年次	2	間 単 時 位	15時間 1単位
学修内容	<p>本科目では、基礎看護実習Ⅱで受け持った患者の事例をもとに、プロジェクト学習という学習方法を用いて学習する。</p> <p>これまでに学んだ形態機能学、病態生理治療論、基礎看護学などの知識を活用し、実習で受け持った患者の理解を深め、不足していた知識について学習する。さらに、このプロセスから、患者理解に役立つ知識の活用の仕方とはどのようにすることなのか？何をどのように思考し、学習することが必要なのか？という、知識の活用法、学習法を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>① 実習で担当した患者の苦痛や生活上の困難と、病態生理との関連が明確になる。</p> <p>② 学習のプロセスで得られた知識について理解する。</p> <p>③ 患者に行われていた看護、または必要と考える看護の根拠が明らかになる。</p> <p>④ 患者の理解を深め、看護の根拠を明確にするための知識の活用法を理解する。</p> <p>⑤ 人の身体のメカニズムや病態生理を理解する上での自己の課題を明確にする。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義ガイダンス(講義の進行・評価法) VISION→GOALを明確に！ 2. GOAL達成のために計画を練ろう！ 3. 実習メンバーと、VISION→GOALをみんなで共有 4. プレゼンテーション大会 ①（ポートフォリオを使って） 5. プレゼンテーション大会 ②（ポートフォリオを使って） 6. 凝縮ポートフォリオ発表会 7. 凝縮ポートフォリオ発表会 8. 自分の成長を確認しよう！（45分間） 						<p>講義</p> <p>個人ワーク</p> <p>グループ毎プレゼンテーション</p> <p>グループ毎プレゼンテーション</p> <p>凝縮ポートフォリオを使用してクラス全体に向けて発表します。</p> <p>* 凝縮ポートフォリオ提出</p> <p>* 成長確認シート提出</p>
成績評価	<p>・方法 プレゼンテーションの他者評価15点(3回)・凝縮ポートフォリオ30点・成長確認10点・参加姿勢15点 合計で100点</p> <p>・基準 評価のためのルーブリックに沿って評価します。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 1年次の春季休暇中に、VISION→GOALを考える。(GOALシートに記入)</p> <p>・留意点 自分の中で「これって何故だろう？」と問いを見出し、試行錯誤しながら自分の目的(GOAL)に向かって学習を進めていきます。簡単に他者に頼って答えを求めるのではなく、自分で目的を持って考え、解決していく学習力、思考力が身につくように努力しましょう。また、他者の学習内容や考えを見聞きする機会を多く設けています。他者から学ぶことも意識して授業に臨んでください。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進, 医学書院. ・増田敦子 著：解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・高木永子 監修：看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル秀潤社. <p>・必要物品</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基礎看護実習Ⅱの実習ファイル(ポートフォリオ) ② A4サイズのポケット式ファイル(20ポケット以上のもの) ③ 付箋(大きさ・カラー複数用意) 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木敏恵 著：プロジェクト学習の基本と手法, 教育出版. ・鈴木敏恵 著：ポートフォリオとプロジェクト学習, 医学書院. 						

科目名	社会福祉	担当者	佐々木 隆志	年次	2	単 位 時 間	15時間 /1単位
学 修 内 容	<p>①私たちの日常生活のなかで、社会福祉はどのように機能しているか学習する。</p> <p>②今日の社会福祉は、従来の社会福祉の基本的性格にある、措置制度(行政がサービスを決定すること)から契約制度へと転換してきている。しかし、一方では格差社会が進み、保護受給者が増えている現状がある。また、自殺者も多い。そこで、社会福祉サービスが今日機能しているのか、その現状理解と予防策が急務であり、社会福祉サービスの仕組み・保健・医療・福祉の連携も学習する。</p>						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活のなかで、社会福祉サービスが生活の安定化に寄与していることを理解する。 ・社会福祉サービスの中でセーフティネット(社会的安全網)の仕組みを理解する。 ・国民の生存権については、社会保険方式により具現化されていることを理解する。 ・障害の有無にかかわらず、地域社会の中で高齢者、障害者、児童が安心して生活ができる体制を理解する。 <p style="text-align: right;">・人権擁護について理解する。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回	社会保障制度と社会福祉の法制度(福祉六法)の機能について	社会福祉六法の理解				
	第2回	現代社会の変化と社会保障の動向	社会福祉制度の変革理解				
	第3回	医療保障、介護保険制度	介護保険の仕組みの理解				
	第4回	介護保険制度の仕組みと給付内容	介護保険仕組みの理解				
	第5回	所得保障、年金保険制度	公的年金制度の理解				
	第6回	社会手当、労働保険制度	労働者生活安定の理解				
	第7回	生活保護、公的扶助、社会福祉法	生活困窮者の支援制度の理解				
	第8回	社会福祉の分野とサービス(児童、障害、高齢者)、社会福祉のま	心身障害サービス体系の理解				
成 績 評 価	・方法	筆記試験、受講態度及び課題提出等を総合的に評価します。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する(筆記試験60点以上を合格とする)。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	社会福祉に関するニュースを読もう。					
	・留意点	学ぶ姿勢を大切にすること、その瞬間が君の未来をかえる。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉					医学書院
	・必要物品	教科書、ノート、筆記用具。 学ぶ姿勢。					
参 考 文 献	『国民の福祉の動向』	厚生統計協会					
	『国民衛生の動向』	厚生統計協会					

授 業 概 要

科目名	公衆衛生学	担当者	佐野 満昭	年次	2	時間 単位	30時間 ／1単位
学修内容	<p>公衆衛生学の領域は自然科学のみならず社会や経済の動向と密接に関連するとともに、その実行に関しては、しばしば行政の関与する社会的な対処が求められる応用的学問である。わが国では高齢人口の急激な増加に対処すべく、国家的、社会的要請のもと公衆衛生の分野で看護師がはたす役割はますます重要になってきている。</p> <p>講義では、公衆衛生の理念、保健統計、疫学、保健衛生、環境(食品)衛生などの中で、国家試験との関連を含め、社会的、国際的に関心の高い事項を中心に解説する。</p>						
到達目標	<p>公衆衛生学は疫病の予防、健康の維持増進、健全な生活環境の保持とその整備等について、社会全体の視点で捉える学であり術である。</p> <p>講義を通じ学んだ公衆衛生学的な考え方やその方策について、各授業計画のテーマごとに説明できることを到達目標とする。</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
成績評価	<p>第1回：講義 公衆衛生の考え方(定義、健康の概念)、公衆衛生の歴史</p> <p>第2回：講義 疫学による健康への理解</p> <p>第3回：講義 人口問題、人口予防</p> <p>第4回：講義 感染症とその予防</p> <p>第5回：講義 食中毒、食品の栄養</p> <p>第6回：講義 食品保健と栄養</p> <p>第7回：講義 生活習慣病とその予防</p> <p>第8回：講義 生活環境の安全</p> <p>第9回：講義 飲料水、大気汚染、住環境等</p> <p>第10回：講義 環境ホルモン問題</p> <p>第11回：講義 医療の制度と地域保健活動</p> <p>第12回：講義 母子保健、老人保健</p> <p>第13回：講義 学校、産業保健</p> <p>第14回：講義 公衆衛生の展望</p> <p>第15回 試験と問題の解説、まとめ(講義の総括)、国家試験関連問題の解説</p>						
事前課題・留意点	<p>・方法 筆記試験</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> <p>・事前課題 シラバスの授業計画から、各授業のテーマ内容を指定テキストで予習しておくこと。</p> <p>・留意点 講義は、最新の統計資料に基づいて行うことや、また図表等を多用する必要から、配布プリント、教科書、「国民衛生の動向」を参考に、パワーポイントにより行う。公衆衛生に関しては、テレビや新聞などで紹介される身近な内容も多いことから、テレビ、新聞等それらメディアの報道にも注意をしてほしい。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト わかりやすい公衆衛生学 清水忠彦 他 著 ニューヴェルヒロカワ</p> <p>講義ごとに配布するプリント</p> <p>・必要物品 特に指定しない。</p>						
参考文献	国民衛生の動向(厚生統計協会)						

授 業 概 要

科目名	関係法規	担当者	佐々木 隆志	年次	2	時間 単位	15時間 ／1単位
学修内容	①私たちの生活のなかで、医療分野で関係法規がどのように機能しているか学習する。 ②看護師に必要な、医療関係法規、社会福祉関係法規、薬事関連法規、労働関係法規などを学習する。 ③医療関係者の人材確保対策及び関係法規を学び、労働安全と保健衛生及び医療事故対策と看護師の役割についても学習する。 ④近年の関係法規の改正点も重視し学習する。						
到達目標	・看護師に関連する人材確保関連法について理解する。 ・医療を提供する場に関連する法を理解する。 ・人々の生活と暮らしに関連する法を理解する。 ・労働者の暮らしや失業、雇用の安定に関する法を理解する。 ・人の命を守る法律と人権擁護を理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	法の概念、医事関係法		看護関連法の理解			
	第2回	保健師助産師看護師法、地域保健法、健康増進法		看護師根拠法の理解			
	第3回	精神保健福祉法、精神保健福祉士法、母子保健法、母体保護法		精神保健関係法の理解			
	第4回	感染症の予防対策法規、予防接種関係法、薬務関連法規		感染症関連法の理解			
	第5回	環境関連法規、社会保険関連制度		社会保険関連法の理解			
	第6回	介護保険法、社会福祉法、福祉関係六法		介護福祉関連法の理解			
	第7回	労働基準法、労働安全衛生法、近年の法制度改正の要点		労働者関連法の理解			
	第8回	雇用機会均等法、高齢社会対策基本法他のまとめ		労働者雇用安定関係法の理解			
成績評価	・ 方法 筆記試験、受講態度及び課題提出等を総合的に評価します。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する(筆記試験60点以上を合格とする)。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 翌週の個所を言うので、教科書を読んでくること。 ・ 留意点 学ぶ姿勢を大切にすること、その瞬間が君の未来をかえる。						
テキスト・必要物品	・ テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院 ・ 必要物品 教科書、ノート、筆記用具。 学ぶ姿勢。						
参考文献	『国民の福祉の動向』 厚生統計協会 『国民衛生の動向』 厚生統計協会						

授 業 概 要

科目名	保健統計学	担当者	東野 定律	年次	2	時間 単位	20時間 /1単位
学修内容	看護研究を進めていく上で、科学的研究論文を読み解くには統計手法の理解が必須である。そこで本授業では、よく用いられる統計手法の考え方や理論について概説する。またコンピュータの統計ソフトを使用しながらグラフや表作成の基本についても理解させるところから、科学的研究方法の基礎を培う。						
到達目標							
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
授業計画	第1回：看護研究と統計学 第2回：基本統計量と統計的研究の予備知識 第3回：棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフの描き方 第4回：散布図・相関係数 第5回：回帰直線と近似曲線 第6回：正規分布 第7回：統計的推定 第8回：統計的検定 第9回：一元配置分散分析と多重比較 第10回：試験(実技試験)						
成績評価	・ 方法 実技試験と出席状況 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 毎回の授業において、演習形式の課題提出を求めます。授業の積極的な参加を望みます。						
テキスト・必要物品	・ テキスト 「よくわかる医療・看護のための統計入門」(第2版石村 貞夫 他 東京図書) ・ 必要物品 テキストは必ず毎回持参してください。						
参考文献	「看護研究のための統計学入門」 中野 正孝 著 JINブックス						

授 業 概 要

科目名	総合医療論	担当者	香川 二郎 中村 利夫	年次	3	単 位 時 間	15時間 ／1単位
学 修 内 容	保健医療に関する知識を修得し、看護師としての基本的態度を身につける。						
到 達 目 標	現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を総合的に知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性、視点について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義 医学、医療とは何か、生命について考える。 第2回：講義 医学史 第3回：講義 健康・病気・医学の体系、病気の原因・症状 第4回：講義 病気の診断と治療 第5回：講義 病気の予防 第6回：講義 新しい医療システム 第7回：講義 生命へのアプローチ、健康教育と衛生統計	} (香川) } (中村)					
成 績 評 価	・方法 筆記試験、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望： 自主的な勉学を望みます。（中村）						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎 総合医療論 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	死生学	担当者	森誠、中村美智太郎、 山下秀智、小野田貴夫 吉野吾朗、石川達也、亀澤ますみ 他	年次	3	単 位 時 間	15時間 ／1単位	
学 修 内 容	様々な学問的な視点から「死と生」に対する講義をオムニバス形式で受講する。そして看護学の理解や臨床での経験、自己の経験から育まれてきた死生観を基に、改めて「生きること、死ぬこと」について見つけ、看護学生としての自己の理解を深めたい。（各学問分野:生物学、哲学、宗教学、医学、看護学、文学等）							
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の講義を受け、その学問的視点から自分自身の死生観をレポートする。 ・6つの学問的視点からの学びを元に看護学生としての死生観をまとめる。 ・「私が考える人間が死ぬということ」を明らかにする。 ・「私が考える人間が生きること」を明らかにする。 ・「私が考える人間の生と死を支援すること」を明らかにする。 							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	<p>1) 様々な学問的な視点から死生観を学ぶ。</p> <p>①生物学的な視点（静岡大学名誉教授 森 誠先生）</p> <p>②哲学的な視点（静岡大学 教育学部 中村 美智太郎先生）</p> <p>③宗教学的な視点（静岡大学名誉教授 山下秀智先生）</p> <p>④文学的な視点（常葉大学短期大学部 小野田貴夫先生）</p> <p>⑤医学的な視点（藤枝市立総合病院 緩和ケア科 吉野吾朗先生）</p> <p>⑥看護学的な視点（藤枝市立総合病院 緩和ケア認定看護師 石川達也先生）</p> <p>2) 受講後は個人個人の死生観について語り合い、意見交換する。</p> <p>3) 様々な視点からの学びをもとに自己の死生観を探求し、レポートにまとめる</p>						<p>①～⑥の講義終了後毎回小レポートを提出する。 講義の順序は上記と異なる事があります。</p> <p>小グループでの意見交換</p> <p>課題レポート提出：評価対象</p>	
成 績 評 価	<p>・方法 ・筆記試験(レポート:担当、亀澤)</p> <p>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</p>							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 ・1回1回の講義の内容をこれまでの自己の経験や価値観に照らし合わせ「生きる」とはどのような事か「死ぬ」とはどのような事かを看護学生として考えを深める機会となるよう真摯な姿勢で学習してください。 ・本講義は取高子平じめる3年次じ自分自身の死生観を確立し、村木、鈴木期にめる人々に看護の役割が果たせることを目標としています。多くの学問分野からの提言をもとに各自の「死生観」を見つめ直してください</p>							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト なし</p> <p>・必要物品</p>							
参 考 文 献	その都度の講義のなかで紹介される。							

授 業 概 要

科目名	看護学概論	担当者	伊藤 みどり	年次	1	時間 単位	30時間 1単位
学修内容	<p>看護学概論は、専門分野Ⅰ基礎看護学の土台に位置づけられ、看護学全体の基本的内容を学ぶ科目である。総合人間学での人間理解を土台に、看護の対象である人々を理解し、健康を入口に、その人らしく生きることを支援するという看護の本質を考える科目である。</p> <p>さらに専門分野Ⅱの専門領域や看護の統合分野への発展に向け、看護への関心を高め、看護を俯瞰して捉え看護学の豊かさや奥深さをイメージする機会としたい。</p>						
到達目標	<p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護全般の概念を捉え、看護の社会的位置づけや役割の重要性を認識する。 2. 看護を規定する主要概念について理解し、看護とは何か本質を追究する。 3. 看護の理論とは何かを学び、看護観をもつ必要性を理解する。 4. 看護の先人たちの足跡をたどり、その歴史と発展について学ぶ。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 「私の紹介」 ～一人ひとりを尊重しよう！！～						一人ひとりが「自分」紹介をする。
	第2回 ガイダンス 専門職としての看護 看護師に求められる力と役割						※課題 ミニレポート①
	第3回 看護の使命、ケアリングの心を「マザー・テレサ」から学ぶ						※課題 ミニレポート②
	第4回 保健・医療・福祉における看護の役割						
	第5回 健康の促進と回復の支援						
	第6回 さまざまな看護理論						特に印象に残った理論家を選び、もっとこのことを知りたいと思ったことを調べる。 ※課題③
	第7回 ナイチンゲールの看護理論・ロイの看護理論に触れる						
	第8回 看護の本質と広がりについて学ぶ						
	第9回 看護倫理について 人間について						
	第10回 看護の歴史 看護の過去～現代そして未来へ ①海外の看護						
	第11回 看護の歴史 看護の過去～現代そして未来へ ②日本の看護						
	第12回・13回・14回 ラベルワーク（14回目は発表）						
	第15回 筆記試験 まとめ						※授業の所感を記入し、毎回の授業の振り返りをしていきます。
成績評価	<p>・方法 ミニレポート10点①②(5点×2回) レポート10点③ ラベルワーク参加度5点 筆記試験75点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 授業前に「私の紹介」として、今までの経験、得意とすること、看護師になるという気持ちなどを、指定の用紙にまとめる。(1分間で発表できる内容で)</p> <p>・留意点 授業の資料、ノートなどをファイルなどにしっかりと整理してください。自分で追加学習をしていき、それもファイルに増やしていきましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ①宮脇美保子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論，メヂカルフレンド社。 ②フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳：看護覚え書，現代社。 ③東京医科大学看護専門学校編著：プチナース特別編集版 よくわかる看護者の倫理綱領，照林社。</p> <p>・必要物品 授業の資料やノートはファイルなどでしっかり整理してください。</p>						
参考文献	<p>①茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論，医学書院。 ②小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践，医学書院。 ③川島みどり著：きらり看護，医学書院。 ④笹原留似子著：おもかげ復元師の震災絵日記，ポプラ社。</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法 I 生活援助技術 環境の調整	担当者	吉田 五百枝	年次	1	単 位 時 間	16/30時間 1単位
学 修 内 容	人と環境は密接な関係にあり、環境の善し悪しは健康の保持増進に大きく影響する。患者にとっての病室は、治療・看護を受ける場であるとともに日常生活の場となる。この単元では、人間にとっての環境の意義を考えるとともに、療養生活にある患者の環境とはどのようなものであるかを考え、看護者が行う環境の調整とはどのようにしていくことなのかを学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意義を理解する。 2. 療養者にとって快適な療養環境を考える。 3. ベッドメイキングの原則を理解し、快適なベッドをつくる。 4. 安全・安楽を考慮した臥床患者のシーツ交換を実施する。 5. 看護者が環境を調整する意義について理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	1. 人間にとっての環境の意義と療養環境						講義
	2. 療養環境のアセスメント						講義
	3. ベッドメイキング						校内実習（A・Bグループに分かれる）
	4. ベッドメイキング						校内実習（A・Bグループに分かれる）
	5. ベッド周りの環境を考える						校内実習（A・Bグループ合同）
	6. 臥床患者のシーツ交換						校内実習（A・Bグループに分かれる）
	7. 臥床患者のシーツ交換						校内実習（A・Bグループに分かれる）
	8. まとめ 看護者が環境を調整する意義						講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 25点 実技試験 25点 本科目は50点満点となります。 ※ 看護方法 I「活動と休息」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての課題を提示します。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 校内実習は、事前課題を活用して実施します。 校内実習後には、主体的に練習をしましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参 考 文 献	89						

授 業 概 要

科目名	看護方法 I 生活援助技術「活動と休息」	担当者	小林 有希子	年次	1	単 位 時 間	14/30時間 1単位
学 修 内 容	人間は成長と共に生活が自立する。自らの生活や欲求に応じて、自然に体を動かし活動している。活動は意識的にも無意識的にも行われるが、同様に休養や睡眠も必要となる。しかし、疾病や治療により活動も睡眠も様々な影響を受ける。そして、過度の安静は悪影響にもなる。本単元では活動と休息を必要に応じてバランスよく安全に提供する援助方法を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息の基礎的概念を理解する。 2. 姿勢の保持、体位変換、移動の援助の目的と援助方法を理解する。 3. 姿勢の保持、体位変換、移動の基礎的技術を実施する。 4. 活動の減少や不動状態による危険や合併症を理解する。 5. 睡眠の基礎知識とその援助について理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回	活動休息の意義と基礎知識					講義
	第2回	ボディメカニクスと安楽な体位の保持と変換					講義
	第3回	安楽な体位の保持と体位変換(A/B)					校内実習(A/Bに分かれる)
	第4回	移乗と移動、移送の基礎知識					講義
	第5回	移乗と移動、移送の援助(A/B)					校内実習(A/Bに分かれる)
	第6回	講義 不動状態の影響 睡眠とは、睡眠障害とその援助					講義
	第7回	試験・解説					
成 績 評 価	・方法 筆記試験 レポート 実技試験 出席状況						
	・基準 筆記試験50% 「環境の調整」と合わせて100%です。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 毎回の校内実習前に、実施する看護技術に関して事前課題があります。						
	・留意点 活動と休息は患者さんは勿論、看護する者にとっても自らの安全を守る重要な基礎です。形態機能学の骨格筋の仕組みなども踏まえて学びましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・織田弘美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器，医学書院。						
	・必要物品 校内実習毎お知らせします。						
参 考 文 献	・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版，学研メディカル秀潤社。 ・任 和子、秋山智弥編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術，医学書院。						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅱ 生活援助技術「食事の援助」	担 当 者	寺岡 智子	年 次	1	単 位 時 間	14/30時間 1単位
学 修 内 容	人間は生きて活動していくために必要なエネルギー源を食物として食べ、消化・吸収して体内に取り入れるという過程を経ている(この過程を「栄養」という)。本科目では、人間にとって食べることの意義を理解し、栄養に関する身体的側面の観察の視点、療養における食事とはどのようなものかについて学ぶ。そして、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって食べることの意義を、生理的、心理的、社会的側面から理解する。 2. 食事の援助に必要な栄養の基礎知識、食事摂取の機序を理解する。 3. 対象の栄養状態および食欲、摂取能力のアセスメントの方法を理解する 4. 栄養のニーズを満たすために必要な看護援助を学び、基本的な食事援助ができる。 5. 食物を経口摂取できない状態にある対象の栄養摂取の必要性と方法を学ぶ。 6. 非経口的栄養摂取法である経鼻経管栄養法の具体的な方法と観察を学ぶと共に、そのような方法で栄養摂取をする対象の心理的苦痛を理解できる。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回: 食事の意義と基礎知識						講義
	第2回: 栄養と食行動に関するアセスメント						講義
	第3回: 基本的な食事援助と摂取・嚥下訓練						講義
	第4回: 基本的な食事援助						校内実習(A・Bグループごと)
	第5回: 経口摂取ができない人への援助						講義
	第6、7回: 経鼻経管栄養法						校内実習(A・Bグループごと)
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 50点 ※看護方法Ⅱ「排泄の援助」と合わせて100点満点になります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 形態機能学Ⅲ「咀嚼・嚥下のしくみ」での学びを復習しておきましょう。</p> <p>・留意点 校内実習前に実施する看護技術に関して事前課題があります。校内実習はその事前課題を活用しながら行ないますので、しっかりと取り組んでから授業に臨みましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院。 ・藤本真記子他監修: 看護がみえる Vol1、Vol2 臨床看護技術、メディックメディア。 ・江口正信著: 検査値早わかりガイド、サイオ出版。 <p>・校内実習ごと、必要物品をお知らせします。</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術「排泄の援助」	担当者	増田 瑞枝	年次	1	単 位 時 間	16/30時間 1単位
学 修 内 容	人間は、水や食物などを身体に取り込み、生命維持に必要なエネルギーを産生する一方その過程で生成される不要な代謝産物を排出する(この過程を「排泄」という)。本科目では、人間にとって生理的欲求の一つである排泄の意義とそのメカニズムを理解し、日常生活行動の一つである排泄行動を意識しながら排泄に関する観察の視点について考えていく。また、排泄に関し看護者が行う援助方法、排泄困難な状況における援助方法及び看護について学んでいく。						
到 達 目 標	(2) 基礎的知識として、排泄の機序及び生理的機能を理解する。 (3) 排泄援助に伴う患者の心理・苦痛を理解する。 (4) 排泄障害の様々な段階を知り、適切な援助方法を理解する。 (5) 排泄行動に障害がある人に対する基本的援助技術を理解する。 (6) 安全・安楽を考慮しながら、基本的な床上排泄の援助ができる。 (7) 浣腸・導尿の目的、原理・原則が理解できる。 (8) モデルに対し原理・原則に従って、浣腸及び一時的導尿の実施ができる。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回	排泄の意義と基礎知識				講義	
	第2回	排泄援助の基礎知識				講義・グループワーク	
	第3回	床上排泄・排便困難時の看護				講義	
	第4回	浣腸の実施と床上排泄の援助				校内実習	
	第5回	排尿困難時の看護				(A・Bチームに分かれて)	
	第6・7回	校内実習 一時的導尿の実施				講義	
						校内実習	
						(A・Bチームに分かれて)	
	第8回	試験・解説					
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験 50点 *看護方法Ⅱ「食事の援助」と合わせて100点満点になります。 ・ 基準 本校の「基準」に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 ・形態機能学Ⅲ「尿の生成するしくみ」での学びを復習しておいてください。 ・ 留意点 ・校内実習を行う看護技術に関しては事前課題があります。校内実習は事前課題を活用しながら行います。必ず事前課題にしっかり取り組んでから授業に臨んでください。 ・事前学習・復習をしっかり行い、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨んでください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真紀子他監修：看護がみえる vol.1 臨床看護技術 Vol1 メデックメディア。 ・近藤一郎他監修：看護がみえる vol.2 臨床看護技術 Vol2 メデックメディア。						
参 考 文 献	・ 深井喜代子編 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱメヂカルフレンド社 ・ 坂井建夫他著 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院 ・ 香春知永他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論 医学書院 ・ 大東貴志他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 92						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅲ 生活援助技術 清潔・衣生活の援助	担 当 者	後藤 治美	年 次	1	時 間 単 位	20/30時間 1単位
学 修 内 容	人にとって、「清潔を保つ」「身だしなみを整える」ことの意義を学ぶ。さらに、体を守る機能の一つである皮膚・粘膜に働きかけ、防御機構を促進するための看護援助の具体的な方法・技術を学ぶ。						
到 達 目 標	① 人の清潔保持行動の重要性を理解する。 ② 清潔の援助の効果と全身への影響を理解する。 ③ 清潔の援助を実施する上での原則・留意点を理解する。 ④ 身体各部の構造や機能に応じた援助の方法を理解する。 ⑤ 患者および看護師にとって安全で安楽な清潔を保持するための看護援助技術を身につける。 (口腔ケア・足浴・全身清拭・寝衣交換・洗髪)						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	1. 人にとっての清潔を保つことの意義 2. 口腔の清潔を保つ目的と援助方法 3. 口腔ケアの実際 4. 部分浴の目的と援助方法 5. 足浴の実際 6. 全身清拭・寝衣交換の目的と援助方法 7. 全身清拭・寝衣交換の実際 8. 全身清拭・寝衣交換の実際 9. 部分浴(洗髪)の目的と援助 10. 洗髪の実際						講義 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる)
成 績 評 価	・方法 筆記試験 35点 実技試験 35点 本科目は70点満点となります。 ※ 本科目と「コミュニケーション」を併せて看護方法Ⅲの評価点(100点満点)となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 各校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめる。後日提出。 ・留意点 ① 校内実習前の事前学習を忘れた場合は、校内実習に参加できません。 ② 学生同士ペアになって看護技術を練習します。常々相手の立場に立った行動に心がけてください。 ③ 校内実習では看護者としての学びだけでなく、患者体験も大切にしてください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術, 医学書院. ・藤本真記子ら監修: 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術, メディックメディア. ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参 考 文 献	93						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅲ 対人関係の援助技術 「コミュニケーション」	担 当 者	亀澤ますみ	年 次	1	単 位 時 間	10/30時間 /1単位	
学 修 内 容	人間は社会的存在として互いの気持ちを伝え合い、理解しあって生きようとしている。その情報交換、意思疎通の行われる過程がコミュニケーションであり、また人間関係を成立させる要素として重要である。医療の場では健康障害という特殊な条件が重なり、その困難さを増すことが多い。その中で看護師は、患者や家族に近い存在として、直接的・間接的なかわりを持ちながら快適な療養生活が行われるように配慮する役割を持つ。そのため、コミュニケーションは看護における中心的技術として必要不可欠である。この単元ではコミュニケーションの基本的概念をもとに、看護場面におけるコミュニケーションのあり方を学ぶ。							
到 達 目 標	1、普段のコミュニケーションを想起し、コミュニケーションの意義・種類・構成要素・過程・影響などについて理解する。 2、社会生活を営む人間にとっての意義と大切さを理解する。 3、看護の原点・出発点となるコミュニケーションの重要性を理解する。 4、患者・看護師間の信頼関係を深めていくために必要な原則や留意点を理解する。 5、看護場面におけるプロセスレコード活用の意義を知り、振返りを体験する。 6、講義や実習をもとに自己のコミュニケーションの傾向を知る。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回：コミュニケーションの意義と人間関係への影響を考える						講義	
	第2回：看護場面におけるコミュニケーションの重要性を考える						講義	
	第3回：プロセスレコードの活用と意義を理解する						基礎見学実習終了後、意見交換	
	第4回：プロセスレコードをもとに学びの共有						毎回の講義では「所感」を提出する。	
	第5回：試験・まとめ							
成 績 評 価	・方法 ・筆記試験(30%:担当:亀澤) ・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 特にありません ・留意点 ここで学ぶ、コミュニケーションやプロセスレコードによる振返りは、今後の実習の中で活用するものです。また、日常生活であっても自己のコミュニケーションを「振り返る力」相手の意図を汲み取る「感じる力」そして自分の気持ちを「伝える力」は看護実践力を支える力になります。コミュニケーションの奥深さを感じ、考えながら取り組みましょう。							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・有田清子他 系統基礎看護講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・アーネスティン・ウィーデンバック コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵 日本看護協会出版 ・必要物品							
参 考 文 献	・系統看護学講座 人間関係論 医学書院 ・長谷川雅美他 編「自己理解・他者理解を深めるコミュニケーションの上手な方法」日総研 ・福沢周亮、桜井俊子 編「看護コミュニケーション」教育出版							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅳ 診療に伴う援助技術 「フィジカルアセスメント」	担 当 者	孕石 美絵 杉淵 美里	年 次	1	単 位 時 間	30時間 1単位
学 修 内 容	患者さんの症状や徴候から情報を収集し、必要に応じて触診や聴診を行い、患者さんの状態を判断するのがフィジカルアセスメントである。この单元では、看護していく上で身につけるべきフィジカルイグザミネーションと、バイタルサインの基本的技術を習得する。また全身状態を系統的に診ていくことで、対象に起こっている身体状態を把握し、その把握した情報の意味(正常、異常)を判断するために必要な基礎知識と技術を学んでいく。						
到 達 目 標	1)看護に必要なフィジカルアセスメント、バイタルサインの意義・必要性が理解できる。 2)系統別のフィジカルイグザミネーションの基本技術を実施できる。 3)フィジカルイグザミネーションを通して、身体の構造、機能の正常を意識できる。 4)バイタルサイン測定を正確に行う意義、原理原則を踏まえて正確に測定できる。 5)フィジカルイグザミネーション、バイタルサイン測定で得られた情報をもとに、アセスメントする必要性が理解できる。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 フィジカルアセスメントの意義と必要性① (問診・視診・触診・打診・聴診)・腹部のアセスメント						講義
	第2回 バイタルサイン測定の意義と必要性 体温の恒常性とアセスメント						講義
	第3回 循環器系①(脈拍)と呼吸器系①(呼吸)のアセスメント						講義+実技
	第4回 循環器系のアセスメント② (血圧)						講義+実技
	第5回 呼吸器系のアセスメント② (呼吸音)						講義+校内実習
	第6回 循環器系のアセスメント③ (心音)						講義+校内実習
	第7・8回 状態の観察とバイタルサイン測定(体温・呼吸・脈拍・血圧)①②						校内実習(A・Bに分かれる)
	第9回 系統的な観察とアセスメント [1~9回担当:孕石]						講義
	第10回 筋・骨格系のアセスメント						講義
	第11・12回 脳・神経系のアセスメント①②						講義
	第13・14回 筋・骨格系のアセスメント・脳・神経系のアセスメント						校内実習(A・Bに分かれる)
	第15回 試験 [孕石]						[10~14回担当:杉淵]
成 績 評 価	・方法 筆記試験 レポート 実技試験 筆記試験80%(孕石50% 杉淵30%) 実技試験20% ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題: ある場合は事前に提示する ・留意点 臨地実習で必ず行う技術であり、技術試験を行います。技術は何度も練習することで身につけていきます。学生同士や家族に協力をしてもらい、積極的に自己練習していきましょう。普段の日常の中でも自分の身体に興味を持ち、構造や機能についてもぜひ意識してみてください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. ・熊谷たまき他監修: フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メデックメディア. ・高木永子監修: New看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. ・必要物品 その都度指定します						
参 考 文 献	・山内豊明著: フィジカルアセスメントガイドブック, 医学書院. ・福井次矢監訳: 写真で見るフィジカル・アセスメント, 医学書院. ・横山美樹著: はじめてのフィジカルアセスメント, メジカルフレンド社.						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅴ 診療に伴う援助技術 「与薬」	担 当 者	小松 佐和子	年 次	1	時 単 間 位	18/30時間 1単位
学 修 内 容	この單元では、診療(診療及び治療)の中でも、薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識と看護師の役割を学ぶ。治療法の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど看護師が果たす役割は非常に大きい。校内実習では薬物療法の中でも特に看護師が実施する機会の多い「経口与薬」「筋肉内注射」について基本となる知識確実な技術を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> ① 薬物療法における看護師の役割を理解する。 ② 与薬に関する基礎知識を理解する。 ③ 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 ④ 患者の安全・安楽に配慮した「経口与薬」「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」の技術を根拠に基づいて実施できる。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回	診療における看護		講義			
	第2回	与薬における看護		講義			
	第3回	経口与薬法		校内実習 (A・Bグループ毎)			
	第4回	注射・輸血の基礎知識		講義			
	第5回	輸液の基礎知識・輸液セットの取り扱い		講義・校内実習 (A・Bグループ合同)			
	第6回	注射の準備・筋肉内注射		講義			
	第7回	注射の準備		校内実習 (A・Bグループ毎)			
	第8・9回	筋肉内注射		校内実習 (A・Bグループ毎)			
				※校内実習後に所感を提出してもらいます。			
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験40点 出席状況・取り組み姿勢5点 事前課題への取り組み15点、合計60点 「検査における看護」とあわせて100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術について学習をしてもらいます。その都度お知らせします。</p> <p>・留意点 ・侵襲を伴う看護技術になります。真仕める判断と倫理的な実践が求められます。根拠に基づいた技術を実施できる。 ・「注射の準備」「筋肉内注射」の校内実習時は、事故防止に心がけ、落ち着いて慎重に行動してください</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 佐藤久美他監修：看護技術がみえるvol.1 vol..2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア.</p> <p>・必要物品 校内演習の内容によって事前準備の必要物品、服装が異なります。事前にお知らせします。</p>						
参 考 文 献	<p>坂井陽子他:学ぶ・試す・調べる看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版社株式会社. 大岡良枝他:NEWなぜ?がわかる看護技術LESSON, Gakken. 坂本すが他監修:ビジュアル 臨床看護技術ガイド, 照林社.</p>						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅴ 診療に伴う援助技術 「検査における看護」	担 当 者	朝比奈結華	年 次	1	単 位 時 間	12/30時間 1単位
学 修 内 容	この單元では、診療時の看護として『検査における看護』について学ぶ。検査の目的・種類について学習し、また、検査時の看護が単に診療の補助業務ではなく、検査を受ける人への看護であることを理解し、看護の役割を学ぶ。多くの検査の中から身近な人が受けた検査の具体的方法や看護について調べ、検査における看護の役割を学ぶ。校内実習では、身体への侵襲がある血糖測定や静脈採血を体験し、方法・技術を学ぶと共に、患者への身体的・精神的苦痛への配慮を学ぶ。						
到 達 目 標	1) 検査の目的・種類・看護の役割を理解する 2) 臨床での主要かつ基本的な検査について、自ら調べることで知り、学びを共有する 3) 採血における目的・手順・手技・注意点について理解し実施できる 4) 検査を受ける人の身体的・精神的な苦痛を考え、配慮の必要性を理解できる						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
授 業 計 画	第1回： 検査の目的・種類・看護の役割、注意事項、事故防止 第2回： 血液検査について 第3,4回： モデル人形による採血 第5回： 血糖管理 第6回： まとめ・試験					講義 講義 校内実習（A,Bグループ毎ごと） 校内実習（A,Bグループ合同）	
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験25% 夏季休暇中のレポート5% 取り組み姿勢10% *「与薬」と合計して100% ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめ、校内実習前後に提出。 ・ 留意点 ・レポートは夏季休暇中の課題となります。文献を用いて検査における看護について考えよう。 ・根拠をもとに、正しい手順を理解した上で、実習に取り組んで下さい。 ・採血の校内実習時は、事故予防に心がけ、落ち着いて慎重に行動して下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 佐藤久美他監修：看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア. 江口正信編著：検査値早わかりガイド, 医学書院. ・ 必要物品						
参 考 文 献	村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術①, インターメディカ. 玉木ミヨ子編集：看護学生必修シリーズ“なぜ? どうして?”がわかる基礎看護技術, 照林社.						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅵ 看護活動に共通の技術 記録・報告、教育的関わり	担当者	増田 瑞枝	年次	1	単 位 時 間	10 / 30時間 1単位
学 修 内 容	看護は、あらゆる年代の個人家族、集団、地域社会を対象とし、対象が本来持つ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うすることができるよう身体的・精神的・社会的に支援することを目的としている。健康の維持と向上に向けて、その人の希望や困難さを理解しようと関わり、その人の学習の価値を尊重できるような看護活動が求められている。この単元では、演習を通して看護の学習支援技術を学び、看護師の役割について理解する。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における学習支援の意義と看護師の役割を理解する。 2. 学習支援計画書を立案し、提案集を作成する。 3. 看護における記録・報告の重要性を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における記録 2. 看護における報告 3. 看護における学習支援の意義と看護師の役割 4. 学習支援計画書の必要性和計画立案 5. 学習支援の教材作成の準備 						講義 講義 講義 講義 講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 15点 学習支援の課題 15点 本科目は30点満点となります。 ※ 看護方法Ⅵ「感染予防の技術」と合わせて100点満点となります。						
	・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 「身近で大切な人」を対象とし、その人がより健康な生活を送れるように「大切な人の健康を守る」ための提案集を作成します。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅵ 看護活動に共通の技術 「感染予防の技術」	担 当 者	吉田 五百枝 小島 太	年 次	1	単 位 時 間	20/30時間 1単位
学 修 内 容	感染に対する基礎知識を微生物学と免疫学と結びつけながら、病院内で起きている感染を予防するために行われている対策、および感染予防の必要な知識・技術を学ぶ。そして、患者の安全を守ると共に医療者自身の安全を守る重要性について学ぶ。						
到 達 目 標	1) 看護において安全の意義を理解し、安全を守るための基礎知識を学ぶ。 2) 病院で行われている感染予防のための基礎知識・技術を学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 感染防止の基礎知識(吉田)						講義
	第2回 感染防止対策の基本(小島)						講義
	第3回 状況に応じた感染予防対策 手指の清潔を考える(吉田)						グループワーク・校内実習(手洗い)
	第4回 手指消毒・滅菌手袋の装着(吉田)						校内実習 指定日に事前課題提出
	第5回 ガウンテクニック(吉田)						校内実習 指定日に事前課題提出
	第6回 滅菌用品の取り扱い(吉田)						講義
	第7回 創傷の治癒過程 創傷管理(吉田)						講義
	第8・9回 無菌操作(吉田)						校内実習 指定日に事前課題提出
	※無菌操作技術試験						第4・8・9回目の看護技術の内容を 技術試験として実施する
	第10回 学科試験						講義
成 績 評 価	<p>・方法:筆記試験(35点)実技試験(35点 ただし試験は100点だが35点換算する)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 夏季休暇に事前課題(感染予防の基礎知識)あり。校内実習前は事前課題あり。</p> <p>・留意点 感染予防の技術は医療施設や家庭でのあらゆる場面で必要な知識、技術である。医療者となる者として清潔、汚染の判断ができるように考えながら授業に臨んでください。 実技試験があります。根拠を踏まえて練習を重ねて試験に臨んでください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 任和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真紀子他監修: 看護がみえる vol.1 基礎看護技術第1版 メディックメディア 佐藤久美他監修: 看護がみえる vol.2 臨床看護技術第1版 メディックメディア</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	<p>南嶋洋一他: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院 坂井建雄他: 解剖生理学 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 医学書院 日本看護協会教育委員会監修: 看護場面における感染防止 インターメディカ</p>						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 呼吸・循環を整える技術	担 当 者	杉淵 美里	年 次	1	時 間 単 位	20 / 30時間 1単位
学 修 内 容	人は、生命維持に重要な役割を担う呼吸と循環によって、身体内の細胞が正常に働き続けるために必要な酸素を取り込み、二酸化炭素や老廃物を排泄する。これらの機能が正常に果たされるためには、内部環境の恒常性が保たれていなければならない。この単元では、呼吸・循環が障害されることによって起こる問題とその看護について学ぶ。また、内部環境の恒常性維持に関わる体温調節機能が障害されることによって起こる問題とその看護について学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって呼吸すること、循環することの意義を理解する。 2. 呼吸・循環が維持されないことによって起こる症状を理解し呼吸が脅かされることの苦痛・心理を理解する。 3. 呼吸を安楽にする看護技術について理解する。 4. 人間の恒常性維持に関わる体温調節機能の果たす役割を理解する。 5. 体温調節の適応状態を調節するための罨法の方法およびその根拠を理解する。 6. 科学的根拠に基づき、安全・安楽を考えた罨法を習得する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸困難のある患者への看護 2. 吸入療法とその看護 3. 酸素吸入 4. 薬液吸入 5. 吸引療法とその看護 6. 吸引 7. 体温調節不応の患者への看護 8. 温罨法 9. 冷罨法 10. 試験 						講義 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 60点 ※ 看護方法Ⅶ「救命・救急看護」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 詳細は第1回の講義の時に説明します。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・佐藤久美他監修：看護がみえる vol. 2 臨床看護技術，メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参 考 文 献	100						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 「救命・救急看護」	担当者	實石 光歩 救急救命士 吉田 五百枝	年次	1	単 位 時 間	10/30時間 1単位
学 修 内 容	この單元では、救命・救急看護における看護技術について学ぶ。救急処置は、患者の急変時に行われる処置であり、特に心肺機能停止状態にある対象への救命処置として、初期対応、一時救命処置(BLS)と二次救命処置(ACLS)、止血法について学ぶ。BLSは実際に行えるよう習得を目指す。また、人間の最期である死を迎えるとき、患者と家族がよりよい看取りが行えるための援助方法について学んでいく。						
到 達 目 標	1) 救急看護の役割と対象の特性について理解する。 2) 急変と心肺機能停止の特徴と緊急対応の必要性について理解する。 3) 一時救命処置の内容と方法を理解し、実施することができる。 4) 二次救命処置の内容と方法を理解する。 5) 止血法の種類と方法を理解し、実施することができる。 6) 死の看取りにおける看護の役割と援助方法を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1・2回 普通救命講習を受講する(消防署)						消防署にて受講する
	第3・4回 救急カートの説明 救急患者への看護のアセスメントの発表[グループワーク](實石)						講義・グループワーク グループワーク発表内容を評価と
	第5回 看取りの看護(吉田)						講義 所感あり(評価に含まない)
成 績 評 価	・ 方法 : 普通救命講習受講証取得(10%)・筆記試験(20%)・グループワーク発表(10%) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 第3・4回の講義前までに第1実習室の救急カートとその中の物品の確認を各自で行い講義に臨んでください。 ・ 留意点 基本的な救命処置は繰り返し練習することが求められるため、第1・2回の普通救命講習受講後はイメージトレーニングをしていきましょう。万一、普通救命講習は欠席した場合は必ず年度内に受講してください。 第5回では人の死に携わる者として、皆さん一人ひとりが死について考える機会としていきましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 任和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 佐藤久美他監修：看護がみえるvol.2 臨床看護技術，メディックメディア ・ 必要物品 第3・4回のグループワークでは電子辞書、三角巾の準備をする。						
参 考 文 献	キューブラ＝ロス：死ぬ瞬間，読売新聞社 竹尾恵子監修：看護技術プラクティス第2版，学研 アルフォンス・デーケン：よく生きよく笑いそき死と出会う，新潮社						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅷ 看護過程展開の技術	担 当 者	西川 はるみ	年 次	1	単 位 時 間	30時間 1単位
学 修 内 容	<p>「看護過程展開の技術」は、一言でいえば看護の目標を達成するための方法論の一つである。つまり、看護の対象となるその人にとって必要な援助を見極め、その人らしく生活できるよう支援していくための方法である。看護過程は、看護の対象となる人々と看護実践者との対人関係の中で成立し、展開するものである。すなわち、看護過程は、対人的援助関係の過程を基盤として、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋である。看護過程を展開していくためには、問題解決思考、クリティカルシンキング、倫理的配慮、リフレクションなどを基盤として、既習の知識を活用することが必要となる。この単元では、演習を通して基本的な看護過程展開の技術を学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的配慮など看護過程の基盤となる考え方を理解する。 3. ロイ適応看護理論における看護過程展開の進め方を理解する。 4. 看護過程の各段階であるアセスメント(全体像・関連図・分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価の基本的な考え方とその実際を学ぶ。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概要、看護過程の基盤となる考え方 2. ロイ適応看護理論の主要概念の考え方 3. ロイ適応看護理論の4つの適用様式の定義と構成要素 4. 看護過程の第1段階:アセスメント(情報の収集と分析) 5. 情報の整理 6. 全体像 7. 全体像 グループワーク 8. 情報の分析 9. 情報の分析 10. 情報の分析 11. 関連図・看護問題の明確化 12. 関連図 13. 看護計画の立案、実施、評価 14. 関連図 グループワーク 15. 試験・解説 						講義 講義 講義 講義 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義・演習 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義・演習 試験・講義
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 50点 課題 50点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 詳細は第1回の講義の時に提示します。</p> <p>・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院. ・香春知永他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論, 医学書院. ・小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践, 医学書院.</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	臨床看護演習	担当者	西川 はるみ	年次	2	単 位 時 間	30時間 1単位	
学 修 内 容	<p>看護師医療者として、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要である。臨床看護演習では、形態機能学、病態生理治療論、病態生理演習などで学習した基礎知識と基礎看護方法や基礎看護実習での学びを基に、「気づく」「考える」という思考過程を深めながら、臨床判断能力の基礎的力を身につけていく。また、個々での学習や共同学習を通して、学び合う中で看護に必要なチームワークについて学ぶ機会にもしてほしい。さらに客観的臨床能力試験: Objective Structured Clinical Examination(OSCE)を受けることで、自己の状況判断力や看護実践力を知り、そこから自己の課題を明確にし、今後の実習への取り組み意欲が高められることを期待する。</p>							
到 達 目 標	<p>1)看護師に必要な臨床判断能力について理解できる。 2)経過別看護の特徴やその看護について述べるができる。 3)主要症状におけるアセスメント看護方法が理解できる。 4)状況に合わせて必要な看護を考えることができる。 5)既習の知識を統合し、状況に合わせた看護実践ができる。</p>							
授 業 計 画	授業テーマ						方法 価等を含む)	(形成評
	第1回 講義・OSCEについてのオリエンテーション						講義	
	第2回 経過別看護 1)急性期	2)慢性期					講義・グループワーク	
	第3回 経過別看護 3)リハビリテーション期	4)終末期					講義・グループワーク	
	第4回 呼吸が障害されるということ	アセスメントを進めながら、患者にとって必要な援助を考える					講義・グループワーク	
	第5回 循環が障害されるということ						講義・グループワーク	
	第6回 栄養が障害されるということ						講義・グループワーク	
	第7回 排泄が障害されるということ						講義・グループワーク	
	第8回 運動機能が障害されるということ						講義・グループワーク	
	第9回 意識が障害されるということ						講義・グループワーク	
	第10回 精神が障害されるということ						講義・グループワーク	
	第11回 痛みを経験するということ					講義・グループワーク		
	第12回 凝縮ポートフォリオの作成					講義・個人ワーク		
	第13回 凝縮ポートフォリオの発表					プレゼンテーション		
	第14回 } OSCE	与えられた課題について看護を実践し、振り返ることで自己の課題を見出す						
	第15回 }							
成 績 評 価	<p>・方法 取り組み姿勢(元ポートフォリオ含む)30% グループワーク20% 凝縮の発表5%(他者評価含む) 凝縮のポートフォリオ15% OSCE30%</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題が出た際には、必ず取り組んで来てください。 ・演習では、個人が積極的に学習し、他者の意見を尊重し合い、患者・看護への関心と学びを深め、自己の生活援助技術能力の向上を目指してほしいと思います。</p>							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・香春知永他著：系統看護学講座 専門基礎分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論, 医学書院. ・高木永子監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 他多数</p> <p>・必要物品</p>							
参 考 文 献	<p>・臨床判断・臨床推論に関連した書籍 複数</p>							

授 業 概 要

科目名	成人看護概論	担当者	孕石 美絵 小松 佐和子 保健師	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>本単元では成人の特徴と成人看護の特徴を学ぶ。主には、成人という対象の身体的・心理社会的特徴の理解と成人期にある人への看護に有用な考え方・目的について、グループワークや個人ワークなどを用いて学ぶ。成人看護の目的である地域行政における保健指導の視点も含めて、健康の維持・増進、疾病予防に向けた看護についての理解を深めていく。また、成人期に特徴的な健康障害への影響について理解する。更に成人を看護するうえでの重要な基本的アプローチについての理論を学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学における各発達段階の特徴を理解する。 2. 成人期における身体的・心理的・社会的特徴を理論と関連付けて理解を深める。 3. 健康の維持・増進、疾病予防に向けた看護について理解する。 4. 成人期に特徴的な健康障害について理解を深める。 5. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1,2回：成人期にある対象の理解	[孕石]	講義				
	第3～5回：成人期にみられる健康問題	[孕石]	講義・グループワーク・発表				
	第6,7回：成人期の健康問題①②	[孕石]	講義				
	第8～12回：成人看護に有用な理論	[小松]	講義				
	第13,14回：成人期にある人への保健活動の実際	[保健師]	講義				
	第15回：試験	[小松]	講義				
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験と夏休みの課題</p> <p>試験の点数配分は、孕石担当：夏休み課題レポート20点、夏休みインタビュー10点、筆記試験30点 合計60点 小松担当：筆記試験40点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 夏季休暇には本単元で扱う内容についての課題を出します(評価対象になります)。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <p>・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版。</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅰ	担当者	西川 はるみ 寺岡 智子 福與 彩子 橋本 恵利子	年次	2	時間 単位	30 時間 ／1単位
学修内容	<p>～セルフマネジメントを獲得しようとする人への看護～ 慢性期にある人への看護は、入院を中心とする看護から外来や在宅での看護に比重が移ってきている。このような中、看護者は、多様化している患者の価値観や生き方を理解し、患者が自分自身で病気のある生活をマネジメントする力を身につけられるように具体的な知識・技術を提供すると共に、様々な役割をもった1人の生活者として主体的に生きられるよう働きかけることが重要である。対象が自らの問題に気づき、自ら意思決定したやり方で病気と折り合いをつけて生活を拡大し、その人らしい生活が営めるよう支援していく方法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメントを必要とする人を諸理論を活用しながら理解する。 2. セルフマネジメントを推進していく過程を理解する。 3. セルフマネジメント獲得を目指す看護の実際を理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1～3回：セルフマネジメントを必要とする人の理解と諸理論			講義・グループワーク			
	内部環境調節機能障害のある患者への看護(糖尿病)	[西川]		講義・グループワーク			
	第4～6回：セルフマネジメントに向けての看護の役割			講義・グループワーク			
	内部環境調節機能障害のある人への看護(慢性腎不全)	[橋本]		講義・グループワーク			
	第7～14回：セルフマネジメント獲得を目指す看護の実際			講義・グループワーク			
	栄養摂取・代謝障害のある人への看護(肝硬変)	[寺岡]		講義			
	内分泌機能障害のある人への看護(甲状腺機能障害)	[橋本]		講義			
	循環機能障害のある人への看護(心不全)	[福與]		講義			
	第15回：試験	[西川]					
成績評価	<p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、西川20点、寺岡20点、福與20点、橋本40点 合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 事例を用いて、授業を行っていきます。授業項目に書かれている疾患に関わる臓器の正常な機能や、疾患により現れ症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠を事前に学習しておいてください。</p> <p>・留意点</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]代謝・内分泌 [8]腎泌尿器 [3]循環器 [5]消化器 ・江口正信著：検査値早わかりガイド，サイオ出版。</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版。</p>						

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅱ	担当者	小松 佐和子 竹田 直子 石川 智也 浅野 太志 長坂 信次郎 藤田 智和 片山 聖治 福與 彩子	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>～健康危機状況にある人を支える看護～ 手術等の侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴を学ぶ。人の身体には侵襲が加わっても創傷を修復し、乱された平衡状態を取り戻す非特異的な生命反応が備わっている。このような自然治癒力が患者の回復に効果的に作用し、侵襲から早期回復を促進するよう援助するために必要な知識と技術を学習する。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 健康危機状況にある成人の特徴を理解する。 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解する。 手術前、手術中、手術後の看護を理解する。 手術合併症の知識を使いながら、シュミレーション学習を通して術後観察を体験する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1～3回:周手術期にある人の特徴と理解						講義
	手術侵襲による生体反応・術後疼痛・麻酔による影響・術後合併症						
	第4回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際 術前看護						講義
	第5回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際 術中看護						講義
	第6,7回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際 術後看護						講義 校内実習
	第8～11回:周手術期にある人への看護						TBL
	消化・吸収機能障害のある患者への看護(胃がん)						
	第12,13回:救命救急治療を必要とする状況						講義
	循環機能障害のある人への看護(虚血性心疾患)						
	第14回:標準12誘導心電図(A・Bに分かれる)						校内実習
	第15回:試験						
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、小松20点、竹田40点、福與40点、合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 夏季課題をしっかりと行き、TBL学習に参加するようにしてください。(事前に課題提示します)</p> <p>・留意点 授業中、テキストに大切なことを書き込んだり、線を引いたり、付箋を貼ったりして、学習したことを臨地実習でスムーズに活用できるよう工夫をして質問してください。予習もちろん大切ですが、復習を十分に行なってください。わからないところ積極的に質問してください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 矢永勝彦他編集:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院. 井上智子編集:パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ, 照林社. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院. [3]循環器 [5]消化器 江口正信著:検査値早わかりガイド, サイオ出版. <p>・必要物品 校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。</p>						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> 安酸史子ほか編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版. 高木永子監修:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 						

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅲ	担当者	小松 佐和子 片山 聖治 河原崎 まどか 山邊 優子	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>～セルフケア再獲得を目指す人への看護～ 健康障害による影響からセルフケア能力が低下し、生活の変化を余儀なくされた人の身体的・心理的・社会的側面を理解する。そして、セルフケア能力を維持・回復するとともに、他職種とも連携し残された能力を生かして生活できるように支援する具体的な援助を学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケアの低下状態にある成人を理解する。 2. セルフケア再獲得を支援するチームアプローチの必要性と、構成メンバーの一員としての看護師の役割を理解する。 3. セルフケア再獲得を目指す看護の実際を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1～3回：運動機能障害のある人への看護（関節リウマチ）	〔小松〕					講義
	第4～6回：運動機能障害のある人への看護（骨折）	〔片山先〕					講義
	第7～9回：脳・神経機能障害のある人への看護（脊髄損傷）	〔小松〕					講義
	第10～12回：脳・神経機能障害のある人への看護（脳血管障害）	〔山邊先〕					講義
	第13,14回：消化・吸収機能障害のある人への看護（人工肛門造設）	〔河原崎先〕					講義
	第15回：試験	〔小松〕					
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、小松50点、片山先生25点、山邊先生25点 合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 外傷や疾患により、それまで普通に行えていたことができなくなるといったセルフケアが低下した状態に陥った人が、セルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護支援について学んでいきます。そのためにはまず、機能の正常な状態や、機能障害により現れる症状とのつながりや、必要な治療や検査についても事前に学習しておいてください。成人看護概論で学習した「アンドロロジー」や「危機理論」等についても十分に復習しておきましょう</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学, 医学書院. [5]消化器 [7]脳神経 [10]運動器 [11]アレルギー 膠原病 感染症 ・江口正信著: 検査値早わかりガイド, サイオ出版. ・氏家幸子監修: 成人看護学 D. リハビリテーション患者の看護, 廣川書店. <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子他編集: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版 ・高木永子監修: New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 						

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅳ	担当者	孕石美絵 石井夕紀 黒木真紀 遠藤友香 秋山 祐子	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	～緩和ケアを必要とする人への看護～ 緩和ケアのとらえ方、緩和ケアが必要な人とその家族を身体的・心理的、社会的側面から理解し、看護の視点について学ぶ。また、他職種と連携して苦痛を緩和し、生活を支える具体的な援助を学ぶ。また放射線療法・化学療法を受けている人への看護を学ぶ。						
到 達 目 標	1. 緩和ケアを必要としている人とその人を取り巻く人々を理解する。 2. 終末期にある人とその人を取り巻く人々を理解する。 3. 緩和ケアが必要な人への看護の方法を理解する。 4. 終末期にある人への看護の方法を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回: 緩和ケア概論	[孕石]					講義
	第2回: 緩和ケアにおける倫理的問題	[孕石]					講義・グループワーク
	第3,4回: 意思決定とコミュニケーション	[孕石]					講義・ロールプレイ
	第5～7回: 放射線療法を受けている人の日常生活を支える看護(肺がん)	[秋山先生]					講義・グループワーク
	第8～10回: 終末期にある人を支えるの看護の実際	[石井先生]					講義・グループワーク・DVD鑑賞
	第11回: 終末期にある人の家族および遺族への看護	[黒木先生]					講義・グループワーク
	第12回: エンゼルケア	[黒木先生]					講義・校内演習
	第13,14回: 化学療法を受けている人の日常生活を支える看護(乳がん)	[遠藤先生]					講義・グループワーク
	第15回: 試験	[孕石]					
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験とレポート 試験の点数配分は、孕石40点、石井先生(レポート)30点、秋山先生30点 合計100点です。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 放射線・化学療法などの治療に関しては1年次の学習をしっかりと振り返ってください。また、自分自身の看護観や死生観も問われてきます。この單元の中で、それらについても自分自身を見つめていきましょう。 ・ 留意点 グループワークなどの演習が多いです。積極的に参加する姿勢を大切に、自己の看護観を深めていきましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト ・常藤暁他編集: 系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院. ・小林浩子他著: 系統看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院. ・福田国彦他著: 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院. [2]呼吸器 [9]女性生殖器 ・江口正信著: 検査値早わかりガイド, サイオ出版. ・ 必要物品 校内外美装の時、ポロシャツとジャージで出席してください。						
参 考 文 献	・一般社団法人 日本がん看護学会監修: 患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル, 医学書院.						

授 業 概 要

科目名	成人看護過程展開技術	担当者	孕石 美絵	年次	2	単 時 間 単 位	30時間 ／1単位
学修内容	成人期にあり看護を必要としている人の特徴をとらえて、その人の力を活かして生活できるように看護過程展開技術を用いて、その人に必要な援助ができる能力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連性を考えて、患者理解を関連図に表現することができる。 2. 事例から各様式、カテゴリーにおいて意味ある情報を見出すとともに、何故その状況が起きているのかを考え、関連因子を意識して看護上の問題を表現する。 3. 事例の個性を踏まえ、看護の方向性を考えることができる。 4. 看護上の問題を意識し、個性を活かした看護計画を立案する。 5. 臨地実習の体験等を統合し、看護過程に必要なものを明確にする。 6. 対象を理解するための自己の課題を明確にする。 						
授業計画	授業テーマ						法（形成評価等を含む）
	<p>前半</p> <p>第1、2回：オリエンテーション 事例展開1（糖尿病） 問題の抽出の仕方 情報収集・関連図・情報の整理分析と看護上の問題点抽出</p> <p>第3回：関連図・情報の整理分析・看護上の問題点抽出についてグループで検討</p> <p>第4、5回：ラベルワーク「テーマ：対象理解に必要なもの」</p> <p>第6回：ラベルワーク発表会</p> <p>後半</p> <p>第7～9回：オリエンテーション、事例展開2（脳梗塞） 情報収集・関連図・情報の整理分析と看護上の問題点抽出 問題の整理統合・優先順位・看護計画立案についての考え方 問題の整理統合・優先順位・看護計画立案</p> <p>第10～12回：問題の整理統合・優先順位・看護計画立案についてグループで検討と発表</p> <p>第13、14回：ラベルワーク「テーマ：看護過程に必要なもの」</p> <p>第15回：ラベルワーク発表会</p>						<p>講義</p> <p>個人ワーク</p> <p>グループワーク</p> <p>ラベルワーク</p> <p>発表</p> <p>個人ワーク</p> <p>講義</p> <p>個人ワーク</p> <p>グループワーク</p> <p>ラベルワーク</p> <p>発表</p>
成績評価	<p>・方法 前半 孕石40点、後半 孕石60点 合計100点</p> <p>個人提出物、グループ提出物、グループ内他者評価、振り返り取り組み姿勢で評価をします。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題、留意点</p> <p>様々な疾患による機能障害のある人の健康状態を維持・向上するための看護介入を看護過程の思考を用いて考えます。そのためには、まず機能の正常な状態の復習をして演習に臨んでください。また、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠など今までの学習の復習をして演習に臨みましょう。1年次に学習した看護過程についても振り返っておくと活用につながります。書き方を学ぶのではなく、考え方や着目点などを学ぶと看護過程実習や各領域別実習へとつながります。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <p>必要なテキストは自分で選択して持ってきてください。</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践。医学書院。 ・高木永子監修：New看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント，Gakken。 ・リンダJ、カルペニート著、新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，医学書院。 ・江口正信著：検査値早わかりガイド，サイオ出版。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]内分泌・代謝 [7]脳神 109 						

授 業 概 要

科 目 名	老年看護概論Ⅰ	担 当 者	杉淵美里 小林有希子 竹田直子 金子秀子 保健師	年 次	1	時 間 単 位	30時間／1単 位
学 修 内 容	老年期にある人の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、高齢者の生活の現状を、高齢者を取り巻く社会の視点を通して理解していく。						
到 達 目 標	1. 老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化の特徴を理解する。 2. これまで生きてきた背景を理解し、高齢者の生活と健康について理解する。 3. 高齢者をとりまく社会の変化と、高齢者と家族のつながりを理解する。 4. 保健医療と福祉制度に関する概要について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1回	老年者を知る		杉淵		講義	
	第2回	老年期の発達と成熟		杉淵		講義	
	第3回	老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と、 高齢者におこりやすい健康障害		杉淵		講義・個人ワーク 講義・グループワーク 発表会・講義	
	第4回			杉淵			
	第5回			杉淵			
	第6回	高齢者疑似体験		小林		校内実習	
	第7回	高齢者の生活と健康		小林		講義	
	第8回	高齢社会における保健医療福祉(part1) 高齢者と家族の機能、保健医療福祉制度の変遷		金子		講義	
	第9回	高齢社会における保健医療福祉(part2) 介護保険制度の整備、高齢者医療のしくみ		金子		講義	
	第10回	高齢者の権利擁護 高齢者虐待、身体拘束、権利擁護のための制度		金子		講義	
	第11回	高齢者におけるセクシュアリティ		金子		講義	
	第12回	地域における老人保健医療と介護保険の現状		保健師		講義	
	第13回	老年看護の特徴(自立支援・理論)		竹田		講義	
	第14回	老年看護の役割		竹田		グループワーク	
	第15回	試験 / グループワークの発表		竹田		試験/発表会	
成 績 評 価	・方法 杉淵:筆記試験(30点) 小林:筆記試験(10点) 竹田:筆記試験(20点) 後半グループワークの参加姿勢と成果物(10点) 金子:筆記試験(30点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 「高齢者のすごいところを紹介します」のテーマでレポート作成。方法は①高齢者へのインタビュー ②新聞記事等から見つける どちらでも可 ・留意点 第6回は動きやすい服装で参加 高齢者に関する日々のニュースや報道に関心を持つ						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 ・必要物品 第6回時に雑誌や新聞、財布とお金、携帯電話 グループワーク時に、学内の文房具以外が必要なら各自で用意						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学の各系統 医学書院 ナーシンググラフィカ「高齢者の健康と障害」 南江堂						

授 業 概 要

科目名	老年看護概論Ⅱ	担当者	渡邊幸弘 田村亨治 鈴木洋司	年次	2	時間 単 位	15時間 ／1単位
学修内容	高齢者は加齢に伴う身体機能の変化により、成人と比較し罹患率の高い疾患がある。あるいは老年症候群のように日常の中に潜む健康障害が、既往疾患を増悪させ致命的な状態を引き起こしたりする。このように微妙なバランスの上に立つ高齢者の健康状態を理解し、高齢者特有の疾患の成り行きを理解する。						
到達目標	老化に伴う身体機能の変化によっておこる高齢者の代表的な疾患の特徴をふまえ、その病態・症状・治療・予後・予防方法について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回	循環器機能の低下によって起こる疾患 — 心不全、虚血性心疾患、不整脈	渡邊	・スライド講義 ・小テスト				
第2回	感覚器の機能低下によって起こる疾患 — 白内障、緑内障、老人性難聴 腎・泌尿器の機能低下によって起こる症候・疾患 — 腎不全、前立腺肥大症	渡邊					
第3回	内分泌・代謝機能の低下によって起こる症候・疾患 — 甲状腺疾患、骨粗鬆症	渡邊					
第4回	消化器機能の低下によって起こる疾患 — 胃腸疾患、肝胆膵疾患、がん	渡邊					
第5回	脳の変性疾患 認知症とはどのような状態をさすのか？意識障害やせん妄との違い、認知症の種類と特徴、パーキンソン病・パーキンソン症候群の症状	鈴木	・質問しながらスライド講義				
第6回	呼吸器系感染性疾患 誤嚥性肺炎、レジオネラ、MRSAなど	田村	・教科書の内容に各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えて、なるべく新しい知見を紹介する。				
第7回	老年症候群—脱水、熱中症、低栄養など 長期臥床によって起こる症候・疾患—褥瘡・廃用症候群など	田村					
成績評価	・方法 筆記試験 渡邊先生：50点 鈴木先生：20点 田村先生：30点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 関連する病態生理治療論の復習 ・留意点 日頃、疑問に思っていることを質問して欲しい（鈴木） 講義後にもしっかりと復習してください。（田村）						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 第5回時に併用 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 各系統 医学書院						

授 業 概 要

科目名	老年看護方法 I	担当者	杉淵美里 小林有希子 竹田直子 八木寿乃 増田未知子 小池幸子 大塚さおり	年次	2	時間	単位	30時間 ／1単位
学修内容	老化による身体的・心理的機能の低下を考慮しながら、基礎看護学で学んだ日常生活援助の技術を基盤に、高齢者に適した方法で自立が促せるよう看護方法を学ぶ。また、高齢者に起こりやすい健康問題とその看護方法について学ぶ。さらに高齢者の健康段階に応じた福祉施設における看護の機能やその役割について学ぶ。							
到達目標	1. 高齢者の日常生活における基本的看護の方法について理解する。 2. 高齢者に起こりやすい健康障害について理解し、その予防と看護方法について理解する。 3. 介護福祉施設における看護の役割と機能について理解する。 4. 福祉レクリエーションを体験し身体的効果、精神的効果を知る。							
授業計画	授業テーマ							方法(形成評価等を含む)
第 1回	老年看護の基本、老年看護の機能と役割、 高齢者の日常生活動作と環境のアセスメントと看護					杉淵		講義
第 2回	食生活、摂食・嚥下機能のアセスメントと看護					杉淵		講義
第 3回	排泄障害のアセスメントと看護					小林		講義
第 4回	老年者の清潔行為のアセスメントと看護					小林		講義
第 5回	老年者のおむつ交換					小林		校内実習
第 6回	高齢者のコミュニケーション					八木		講義
第 7回	生活リズム、活動・睡眠障害のアセスメントと看護					八木		講義
第 8回	転倒のアセスメントと看護					八木		講義
第 9回	寝たきり予防、廃用症候群のアセスメントと看護					八木		講義
第 10回	介護老人福祉施設と介護老人保健施設の看護					大塚		講義
第 11回	認知症高齢者の理解					竹田		講義
第 12回・13回	認知症に対する関わり方 ①認知症の基礎的知識 ②認知症の神経心理テストと判定 ③認知症 ステージ別症状と関わり④認知症のスピリチュアル ⑤認知症の脳活性化 リハビリテーションとは ⑥認知症の予防 ⑦レクリエーションの実施					増田		講義及び演習
第 14回	福祉レクリエーション ①福祉レクリエーションとは ②体験を通して人との関わる楽しさを体感する					小池		演習
第 15回	試験(45分)／演習 旅のことは(45分)					竹田		試験／演習
成績評価	・方法 杉淵:筆記試験(15点) 竹田:筆記試験(15点) レポート(10点) テーマ「認知症を持つ高齢者との関わり方」 小林:筆記試験(25点) 八木講師:筆記試験(35点) 講義後の課題提出状況により筆記試験から減点する ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題	・事前課題 老年期にある人の身体・心理・社会的側面の変化について復習して臨む ・留意点 ノートをとること。メール、スマホは見ない、持ち込まない。							
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 大塚真理子 カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医師薬出版株式会社 堀内ふきら ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・必要物品 演習で使用する物品は学校で用意するのでセッティングに協力してください。							
参考文献	山田律子ら 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 本田美和子 ユマニチュード入門 医学書院 増田未知子 ボケからのカムバック 静岡新聞社発行 増田未知子 スリーA増田方式による認知症予防ゲーム 静岡新聞社発行 井庭崇、岡田誠 編著 旅のことは 認知症とともによりよく生きるためのヒント 丸善出版 系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 112							

授 業 概 要

科目名	老年看護方法Ⅱ	担当者	杉淵美里 竹田直子 小林有希子	年次	2	時間 単 位	30時間／1単 位
学修内容	老年病の発症・悪化により医療的処置を受ける高齢者の病状の回復・安定を目指した看護方法を、健康の段階に応じて学ぶ。また、介護する家族のエンパワーメントを理解するとともに、介護負担を軽減するための看護の方法について学ぶ。						
到達目標	1) 高齢者の治療過程における看護方法について理解する。 2) 健康障害を持つ高齢者と家族への看護方法について理解する。 3) 終末期にある高齢者の看護方法について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 健康の段階と健康障害を持つ高齢者の理解（小林） ・第2回から第5回 誤嚥性肺炎の高齢者の看護（小林） ・第6回から第8回 認知症を持つ大腿骨頸部骨折・大転子部骨折の高齢者の看護（竹田） ・第9回から第11回 肺気腫・心不全を持つ高齢者の看護（杉淵） ・第12回から第14回 大腸がんの高齢者の看護（竹田） ・第15回 試験（45分）（竹田） 高齢者と災害看護（45分） 			<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・講義+グループワーク ・講義+グループワーク ・講義+グループワーク ・講義+グループワーク ・試験 ・講義 			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 小林:筆記試験(20点)+レポート(10点) 杉淵:筆記試験(10点)+課題(10点) 竹田:筆記試験(30点)+課題(20点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 夏季休暇の課題:ポートフォリオ(誤嚥性肺炎・大腿骨頸部骨折・肺気腫・大腸がん) ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇中に疾患の病態生理、症状、治療、検査、看護について事前学習をしてください。この学習と講義内容は自分でつなげて、看護を理解していきましょう ・事例検討を行います。積極的に参加し自己の学びを深めてください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門 老年看護学 医学書院 堀内ふき ナーシンググラフィカ『高齢者看護の実践』メディカ出版 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院 ・必要物品 <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 大塚真理子 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 正木治恵ら 老年看護学概論 南江堂 山田律子ら 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 113 						

授 業 概 要

科目名	小児看護概論 I	担当者	亀澤ますみ 寺岡智子	年次	2	時間 単位	30時間 /1単位
学修内容	<p>新生児から思春期、青年期までの小児期は成長発達が著しい。成長発達は自然なものであると同時に一定の法則があり、その原理原則に即している。発達の原則を踏まえ、加えて子どもが育つより良い環境を理解し、環境の一つである親や家族、地域などの社会のあり方を考えたい。そして、看護師として小児の成長発達を促す者として健康な小児の日常生活での関わりについて、自立に向けた各段階での発達の促しや支援の方法を学習する。また、言語の未発達から自ら訴えることのできない小児の身体的、精神的変化を早期に捉え観察するフィジカルアセスメントについても学習する。</p>						
到達目標	<p>1)成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する 2)成長発達の原理原則を理解し、評価の意味と方法を理解する 3)小児フィジカルアセスメントの方法を理解する 4)小児にとっての家族の特徴とアセスメントを理解する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：小児とは(亀澤)						講義
	第2回：小児の成長発達の特徴と原理(亀澤)						講義
	第3回：乳児期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						
	第4回：幼児期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						講義
	第5回：学童期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						各期の発達段階の特徴と援助について、事前学習あり。
	第6回：思春期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						
	第7回：小児各期の特徴を踏まえた関わりと支援を考える(亀澤)						演習
	第8回：小児の成長発達の評価の目的と方法(亀澤)						講義
	第9回：小児にとっての家族のアセスメント(亀澤)						講義
	第10・11回：小児のフィジカルアセスメント(寺岡)						講義
	第12・13回：小児の身体計測とアセスメント(寺岡)						演習 事前学習で行動ガイドを作成する
	第14回：小児の身体計測とアセスメント:ロールプレイ(寺岡)						演習 グループ毎にロールプレイで発表する
	第15回：試験・まとめ(寺岡)						筆記試験
成績評価	<p>・方法 筆記試験(亀澤40%、寺岡60%)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題 留意点	<p>・事前課題</p> <p>・小児各期の成長・発達段階について、事前学習したものを活用して授業を行います。</p> <p>・小児のフィジカルアセスメントの演習では事前学習をもとに実習、ロールプレイを行います。</p> <p>・留意点</p> <p>・みなさんが子供のころを思い出しながら、成長発達段階や環境について考えていきましょう。</p> <p>・子供たちが育っていく環境を理解するために、現代社会の子供たちに関するニュースや社会のニュースに関心を持ちましょう。</p> <p>・フィジカルアセスメントの演習では、新生児のモデル人形を用いて実習を行います。小児看護だけでなく、母性看護法Ⅱ、母性看護実習で必要な看護技術につなげていきましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <p>新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社</p> <p>新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社</p> <p>写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ</p> <p>・必要物品</p> <p>母子手帳</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版</p> <p>根拠と事故防止から見た 小児看護技術 編集：浅野みどり 医学書院 114</p>						

授 業 概 要

科目名	小児看護概論Ⅱ	担当者	久保田・増井・熊谷・近井	年次	2	単位 時間	20時間 /1単位
学修内容	<p>小児期は、遺伝疾患、染色体異常、妊娠や出生時の影響などにより、成人期には見られない特有の疾患がある。また、成長発達途上では身体的特徴により病態や治療が新たな問題やその後の発達に影響を及ぼす事がある。さらに、発達途上の小児の理解力やコミュニケーション力は未熟なため、罹患した事や治療を継続する事が、その後の心理社会面に影響を与える場合もある。そのため、小児期の身体的成長の特徴を理解し、形態機能の特徴を踏まえて小児期にある代表的疾患とメカニズム、治療について理解する必要がある。看護師は、言葉では訴えられない小児をよく理解し、異常の早期発見、予防に努めるために病態と治療についての知識を深める必要がある。</p>						
	<p>1) 其々の系統における代表疾患を理解する 2) 疾患の特徴的メカニズムを理解する 3) 疾患の治療について理解する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 新生児疾患(清水)						講義
	第2回： 循環器疾患(清水)						講義
	第3回： 呼吸器、消化器疾患(清水)						講義
	第4回： 免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患(増井)						講義
	第5回： 感染性疾患(増井)						講義
	第6回： 内分泌疾患・発達障害(増井)						講義
	第7回： 小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患(熊谷)						講義
	第8回： 神経系疾患(熊谷)						講義
	第9回： 腎疾患(熊谷)						講義
	第10回： 血液疾患(近井)						講義
成績評価	<p>・方法 筆記試験(久保田30%、増井30%、熊谷30%、近井10%) 取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 講義の前には、事前学習としてテキストを熟読して出席しましょう</p> <p>・留意点 小児期の心身は、未熟で発達途上にあるため疾患に罹患しやすいという特徴があります。また、小児期特有の疾患や治療もありますので基本的な形態機能学、病態生理治療論などの既習科目は土台として学習して臨みましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版 115</p>						

授 業 概 要

科 目 名	小児看護方法 I	担 当 者	亀澤ますみ 保健師 寺岡智子	年 次	2	単 位 時 間	20時間 /1単位
学 修 内 容	<p>子どもは発達途上にあり、自己表明や健康管理などの力が未熟なため、大人たちより、より良く育つ環境が整えられていることが求められる。そのため、小児看護の対象は健康、不健康を問わず全ての小児とその家族である。看護師は、子どもたちの持つ4つの権利を守り、最善の利益が得られるよう努力する責務がある。現在、看護職は子供たちが育つ家庭や保育園、学校、病院は勿論、地域などの様々な場に他職種や看護職同士が連携して活躍している。其々の場における看護の特徴と役割を学び、少子高齢社会での子育て支援などについても関心を広げたい。合わせて、小児の健全な発育のために、社会が支え護る事故防止、虐待防止、養育支援などの法律や制度について学習を深めたい。</p>						
到 達 目 標	<p>1)小児看護の理念や特質、考え方を理解する 2)様々な場での小児看護の必要性と役割を理解する 3)疾病や障がい、入院や治療が小児や家族に与える影響と看護を理解する</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 子どもの家族を取り巻く社会（亀澤）						講義
	第2回： 小児看護の理念と倫理（亀澤）						講義
	第3回： 疾病や障がいを持つ子どもの理解（亀澤）						講義
	第4回： 疾病や障がいを持つ子どもの家族への看護（亀澤）						演習
	第5回： 小児看護の課題（亀澤）						講義
	第6回： 現在の母子保健活動の実際（保健師）						講義
	第7回： 地域での小児保健・福祉の問題点と対策（保健師）						講義
	第8回： 在宅療養での小児看護（寺岡）						講義
	第9回： 小児と家族に関する諸統計と現状（寺岡）						講義
	第10回： 試験・まとめ（寺岡）						筆記試験
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験（亀澤60%、寺岡40%） ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 ・留意点 皆さんの生活の中で見かける子どもや家族の様子に関心を寄せましょう。子どもに関する新聞の記事やテレビの話題に目を向け、現代の子どもたちを取り巻く環境について看護学生として考えてみましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社 ・必要物品</p>						
参 考 文 献	<p>小児ケアの為の発達臨床心理 岡堂哲雄 ヘルス出版 H30年 子ども・若者白書 内閣府 H30年 厚生労働白書 一若者の意識を探る 厚生労働省 H30年 国民衛生の動向 厚生労働省 116</p>						

授 業 概 要

科目名	小児看護方法Ⅱ	担当者	亀澤ますみ 寺岡智子	年次	2	時間 単位	30時間 /1単位
学修内容	<p>小児期は身体的未熟さに加え、自分の感情や意志などを十分に訴えることができず、疾病の理解もできないままに苦痛にさらされていることがある。周囲の大人や医療従事者が気づき、見守り回復を支えることが重要である。そのため看護師は、小児期に特有な疾患や症状、その発生のメカニズムや影響を理解して家族を含め安全で安楽、安心な生活を提供できるようアセスメントし援助する必要がある。具体的には、小児期の疾患、治療、検査、処置に伴う影響を理解し、療養生活の中にも成長発達を促す援助方法を学習する。また、小児と家族を支え継続的に看護を提供できる繋がりを理解し、看護展開についてシュミレーションする。</p>						
到達目標	<p>1)小児期に特徴的な症状と看護方法を理解する 2)小児期に特徴的な疾患の経過や治療、検査、それらに伴う看護を理解する 3)小児の家族看護、継続看護について理解する 4)小児の看護過程展開を理解する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：小児に特徴的な症状と看護①(寺岡)						講義
	第2回：小児に特徴的な症状と看護②(寺岡)						講義
	第3回：子どもの診療に伴う看護(寺岡)						講義
	第4回：子どもの診療に伴う看護技術①(寺岡)						講義
	第5回：子どもの診療に伴う看護技術②(寺岡)						講義
	第6回：小児の治療処置に伴う安全な援助の実施(寺岡)						演習
	第7回：小児看護の展開について(亀澤)						講義
	第8回：疾病の経過と看護「急性期 腸重積症の症例について考える」(亀澤)						講義
	第9回：疾病の経過と看護「慢性期 I型糖尿病の症例について考える」(亀澤)						講義
	第10～14回：症例から看護計画を立案する(寺岡)						講義・演習
	第15回：試験・まとめ(寺岡)						筆記試験
成績評価	<p>・方法 筆記試験(寺岡40%、亀澤30%) 演習での看護計画のレポート30%</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 これまでの学習を十分に復習して臨んでください</p> <p>・留意点 国家試験問題の状況設定問題などの理解に繋がる分野です。イメージしながら学習しましょう。看護計画の立案は、疾病、発達段階、看護過程などの知識の活用が必要です。3年次の小児看護実習に向けての準備となりますので果敢にトライしましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版117</p>						

授 業 概 要

科 目 名	母性看護概論 I	担 当 者	伊藤みどり 草野恵子 保健師	年 次	1	時 間 単 位	25時間 1単位	
学 修 内 容	<p><母性看護の基盤となる概念と母性を取り巻く環境の理解> 母性看護学の基盤となる概念について理解し、母性を取り巻く環境について家族や地域、文化社会の視点で理解していく。現代社会における様々な母性に関する問題を、自分達の問題として捉え、母性を取り巻く環境を理解する。また、母性看護における倫理について、母性のライフスタイルの変化や医療技術の進歩ということ踏まえ考える。これらのことを通して、母性看護の在り方について理解していく。</p>							
到 達 目 標	<p>【学習目標】 1. 性の多様な捉え方や、現代女性の生き方、リプロダクティブヘルス・ライツの考え方など、母性の基盤となる概念について理解する。 2. 母性を取り巻く環境について、家族、地域、文化・社会の視点で理解し、現代社会における母性に関する問題について考える。 3. 地域における母子保健活動の実際を知り、看護の重要性を理解する。 4. 生殖医療を通して母性看護と倫理について考える。</p>							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回	母性看護ガイダンス 母性とは	伊藤	事前課題の提出(プロジェクト学習)				
	第2回	母性看護の基盤となる概念	伊藤	* 母性を取り巻く環境についてはプロジェクト学習という学習方法で学んでいく。				
	第3回	母性看護の歴史	伊藤	詳細は授業時に説明する。				
	第4回・5回	母性を取り巻く環境①② グループワーク	伊藤					
	第6回・7回・8回	母性を取り巻く環境③④⑤ 発表	伊藤	* グループワークでまとめたことを他者に伝えるように発表する。一人1回以上は質問者目線で発言する				
	第9回	地域における助産師の活動 ～地域母子保健の中の助産所の役割～ (くさの助産院)	草野	* 所感の記入				
	第10回	地域における母子保健活動 ～保健センターにおける母子保健活動～	保健師	* 所感の記入				
	第11回	母性を取り巻く環境 まとめ (母子保健統計、法律を含む)	伊藤					
	第12回	母性看護と倫理 母性看護の目的	伊藤	* 所感の記入				
	第13回	学科試験						
成 績 評 価	<p>・方法 ①事前課題(5点) ②グループワークの取組み(5点) ③グループワークのまとめ(5点) ④凝縮ポートフォリオ(5点) ⑤筆記試験(80点) 授業の取組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 事前学習として夏休みに課題があります。内容は、「母性に関する社会問題について関心をもったテーマについての資料を集める」です。詳しくは事前にお知らせします。</p> <p>・留意点 日頃から母性に関する社会問題に関心をもち、新聞記事などを集めておいてください。初めて学ぶ母性看護学です。興味関心をもち、考えることを大事にしてほしいと思います。</p>							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 1. 森恵美他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学(1) 母性看護学概論, 医学書院 2. 厚生統計協会:国民衛生の動向, 厚生統計協会</p> <p>・必要物品 20Pくらいのポケット式クリアファイル</p>							
参 考 文 献	<p>1. 吉沢豊予子他編著:女性の看護学, メヂカルフレンド社 2. 新道幸恵編著:母性看護概論 母性保健/女性のライフサイクルと母性看護, メヂカルフレンド社 3. 村本淳子他著:ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護, ヌーヴェルヒロカワ 4. 高橋真理他著:ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の生涯発達と看護, ヌーヴェルヒロカワ</p>							

授 業 概 要

科目名	母性看護概論Ⅱ	担当者	伊藤 みどり 増田 瑞枝	年次	2	時間 単位	20時間 1単位
学修内容	<p><母性の発達とライフサイクルにおける女性の健康と看護></p> <p>母性看護学概論Ⅰで学んだ母性の特性、母性を取り巻く環境をふまえて学んでいく。女性のもっている機能がどのように発達し発揮されていくのか、それが生まれ育っていく子どもにどのように影響していくのかを考える科目である。今まで考えたことの無い母性や父性、なんとなく過ごしてきた女性としての健康、また異性から女性を捉えること、胎内にいる胎児や生まれたばかりの新生児が持っている能力について初めてじっくりと考えていくことになる。</p>						
到達目標	<p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性意識の発達の過程を学び、現代の社会情勢における母性・父性のあり方について考える。 子どもの生まれ持った特性を理解し、母子相互作用による母子関係の成立過程を理解する。 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特長を理解し、母性看護の必要性について考える。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 母性の発達と形成過程（伊藤）						※ミニレポート②
	第2回 胎児・新生児の能力（伊藤）						※ミニレポート③
	第3回 母子相互作用（伊藤）						
	第4回 親と子のきずな（伊藤）						
	第5回 父性（伊藤）						
	第6回 女性のライフサイクルと健康 思春期の健康と看護（増田）						
	第7回 成熟期の健康と看護①（増田）						
	第8回 成熟期の健康と看護②（増田）						
	第9回 更年期の健康と看護（増田）						
	第10回 学科試験（増田）						
							※毎回の授業後に振り返り用紙を記入していきます。
成績評価	<p>・方法 ①レポート30点(10点×3回) ②筆記試験(70点) 取組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 春期休暇に『親と子のきずなはどうつくられるか』の第1章～第6章を読み、感じ考えたことを指定の用紙に述べてください。(レポート①)</p> <p>・留意点 考える科目です。毎回の振り返りを大切にしましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ①森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論, 医学書院 ②クラウス 他著:親と子のきずなはどう作られるか, 医学書院</p> <p>・必要物品 授業の資料やノートはファイルなどでしっかり整理してください。</p>						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 吉沢豊予子 他編著:女性の看護学, メヂカルフレンド社 大日向雅美著:母性神話の罫, 日本評論社 大日向雅美著:子育てと出会うとき, 日本放送出版会 林 道義著:父性の復権, 中公新書 大島清著:胎児からの子育て, 築地書館 <p style="text-align: right;">119 *その他の参考文献は授業で紹介します。</p>						

授 業 概 要

科目名	母性看護方法 I	担当者	増田 瑞枝 黒田 健治 久保山 恵規 杉村 千春	年次	2	単 位 時 間	25時間 /1単位
学 修 内 容	<p>「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクル(妊娠期・分娩期)にある人々の看護について学ぶ。安全な分娩を迎えるための看護に必要な、妊娠期の身体的変化・心理社会的変化を理解する。その上で、妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。 また、分娩期の産婦・胎児について理解し、安全で満足のいく分娩を支援する看護について学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<p>妊娠期・分娩期の身体的変化 (1) 妊娠期分娩期の生理的变化を理解する。 (2) 妊娠期・分娩期に起こりやすい異常を理解する。 妊娠期の看護 (1) 妊娠期における母子の生理的特徴を踏まえ、母子の健康状態のアセスメントについて学ぶ。 (2) 妊婦の親役割や家族の新しい役割獲得の準備について理解する。 (3) 母子の健康保持・増進のための妊婦のセルフケア能力を高める援助について学ぶ。 分娩期の看護 (1) 分娩期に関する基礎的知識を学ぶ。 (2) 分娩期における看護の必要性を理解する。 (3) 分娩期の必要な看護技術を知る。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	<p>妊娠期・分娩期の身体的変化 (増田・黒田)</p> <p>第1回 妊娠期の身体的特性(増田)</p> <p>第2回 分娩の進行と産婦の身体的変化(増田)</p> <p>第3回 妊娠・分娩期の異常(黒田)</p> <p>妊娠期の看護 (久保山)</p> <p>第4回 妊婦とは 妊娠性変化の特徴、妊娠期の心理的特性</p> <p>第5回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化1</p> <p>第6回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化2</p> <p>第7回 マイナートラブル、妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第8回 正常から逸脱した妊婦の看護</p> <p>分娩期の看護 (杉村)</p> <p>第9回 分娩の要素と分娩の経過</p> <p>第10回 産婦・胎児、家族のアセスメント</p> <p>第11回 産婦と家族の看護</p> <p>第12回 分娩期の看護の実際</p> <p>第13回 学科試験(45分)</p>					<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>	
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験(身体的変化20点、妊娠期の看護40点、分娩期の看護40点、合計100点満点です。)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・留意点</p> <p>・形態機能学IV[子孫を残す]の講義内容を振り返り、授業に臨んでくテキストに沿って講義をします。(増田)</p> <p>・テキストにどんどん書き込んだり、線を引いたり、付箋をつけたりし活用していきましょう。(久保山)</p> <p>・テキストに沿って講義をします。(杉村)</p>						
テ キ ス ト	<p>・森恵美 他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論, 医学書院</p>						
参 考 文 献	<p>・有森直子他著:母性看護学Ⅱ 周産期各論第2版, 医歯薬出版株式会社</p> <p>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院</p> <p>・小林康江他著:ナーシンググラフィカ母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版</p> <p>・池ノ上克他監訳:みえる生命誕生 授精・妊娠・出産, 南江堂</p>						

授 業 概 要

科目名	母性看護方法Ⅱ	担当者	増田 瑞枝 杉山 恵美子	年次	2	時間 単位	30時間 /1単位
学修内容	<p><マタニティサイクルにある人々の看護:産褥期・新生児期> 「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクルにある人々(産褥期・新生児期)の看護について学ぶ。 産褥期・新生児期の母子の生理的变化について学習する。産褥期は急激に身体、心理社会面の変化が起きる時期である。正常経過を理解し、順調に経過するための看護を学ぶ。また、産褥期は異常を生じやすい時期でもあるため、異常な経過をたどった場合の看護についても学んでいく。 新生児の生理的特徴、新生児期に起こりやすい異常を理解し、必要な看護を考える。</p>						
到達目標	<p>(1)産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 (2)産褥期のおこりやすい異常について理解する。 (3)産褥期における観察の視点を理解し、必要な看護を考える。 (4)産褥期における看護過程の実際を学ぶ。 (5)新生児の生理的特徴、新生児の起こりやすい異常を理解し、看護の実際につなげる。</p>						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回	ガイダンス、産褥期の看護					・講義
	第2-6回	産褥期の身体的変化・心理社会的変化とアセスメント(杉山)					・講義 ・講義 ・講義 ・講義 ・講義
	第7-11回	新生児の看護					・講義 ・講義 ・講義 ・講義
	第12-13回	母性看護過程					・講義・グループワーク
	第14回	母性看護に必要な技術	※沐浴・産褥子宮の観察				・校内実習
	第15回	学科試験・まとめ					
成績評価	<p>・方法 ・筆記試験 (産褥期の看護40点、新生児期の看護40点、看護過程・技術20点) ・取り組み姿勢 ・基準 ・本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・留意点 ・1年次の形態機能学で学んだ子孫を残す仕組み、母性看護概論Ⅱの母子相互作用、母性看護方法Ⅰの妊娠期・分娩期の身体の変化について、復習した上で授業に臨んでほしい。 新生児の看護は小児看護概論Ⅰで体験した小児のフィジカルアセスメントでの学びの意味づけになる。 繋がりを意識し興味関心をもって学んでほしい。(増田) ・講義内容の詳細は、第1回目の講義で提示します。(杉山)</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ・森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論, 医学書院 ・平澤美恵子 他監修:写真でわかる母性看護技術, インターメディカ ・森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論, 医学書院</p>						
参考文献	<p>・ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版 ・太田操編著:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版 ・松原みなみ 他著:母乳育児の看護学, メディカ出版 ・水野克己著:母乳育児学, 南山堂 ・池ノ上克他監訳:みえる生命誕生 授精・妊娠・出産, 南江 121</p>						

授 業 概 要

科目名	精神看護概論Ⅰ	担当者	平林千鶴 後藤治美	年次	2	間 単 時 位	30/30時間 1単位	
学修内容	人のこころの機能、発達のあるりようを理解し、こころが健康な状態、または不健康な状態とはどのような状態なのかについて学ぶ。また、精神保健医療の歴史的変遷から現代社会に求められる精神保健看護の役割を学ぶ。							
到達目標	① こころの健康と不健康を身近な問題として捉える。 ② 精神看護における看護の役割を理解する。 ③ 精神医療・看護の歴史的変遷を知り、患者の人権、精神医療看護における倫理について考える。 ④ 精神保健医療に関する法律・制度を理解する。 ⑤ 精神の発達段階と課題を理解する。 ⑥ 精神衛生に必要な知識・対処方法について理解する。 ⑦ ストレスについての知識・理解・対処方法について理解する。 ⑧ ライフステージにおける心理発達課題とその特徴、対処方法について理解する。							
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）				
授業計画	後藤	1. 精神看護学ガイダンス 2. ストレス反応と精神保健における危機と予防 ・ 心の発達 3. 心の発達と機能を学ぶ 4. 精神医療・精神看護の現状 5. 精神医療・精神看護の歴史的変遷 6. 精神保健医療に関する法律・制度 7. 精神の健康と家族との関連性 8. 精神を病む人への治療と看護			講義			
	平林先生	9. ストレスについて 10. 依存について 11. 児童・思春期～青年期におけるこころと問題行動 12. 成人期～老年期におけるこころと問題行動 13. うつ病と自殺予防			講義			
	後藤	14. 災害とメンタルヘルス 15. 試験			講義			
成績評価	・ 方法 筆記試験 後藤70点 平林先生30点/100点 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・ 事前課題 レポート提出。(1年次の春季休暇に、指定したDVDを視聴した感想をレポートにまとめる) ・ 留意点 ① 毎回の講義終了後、振り返りレポート、または所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。							
テキスト・必要物品	・ テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・ 必要物品							
参考文献	・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学， 医学書院。							

授 業 概 要

科目名	精神看護概論Ⅱ	担当者	田中賢司 八木和一 村上直人 福島一成	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位	
学修内容	精神科医療の歴史的変遷と関連する法律について学ぶ。 精神医学の基礎となる脳の障害(てんかん)および精神機能の障害(精神疾患)についての病態生理・検査・治療について学ぶ。							
到達目標	① 精神医学の歴史と法を知る。 ② 脳の情報処理機構を理解する。 ③ てんかんの病態生理・検査・治療について理解する。 ④ 精神機能の障害(精神疾患)の病態生理・治療・検査について理解する。							
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)	
	田中先生	1. 精神科医療の歴史・法律						全回講義形式で行う。
	八木先生	2. 脳の機能とてんかんの病態・症状・治療・検査						
	村上先生	3. 精神機能と治療						
		4. 精神疾患の分類・検査・治療						
		5. 統合失調症						
		6. 感情障害						
	福島先生	7. 神経障害・ストレス関連障害・身体表現障害 (パニック障害・強迫性障害)						
		8. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 (摂食障害・睡眠障害・性同一性障害・パーソナリティ障害)						
		9. 器質的精神障害 (認知症・症状精神病・精神作用物質による精神・行動障害)						
		10. 心理的発達の障害(知的障害・自閉症スペクトラム障害など)						
		11. 試験						
成績評価	・方法	筆記試験 福島先生50点 村上先生50点/100点						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題							
	・留意点	毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。						
テキスト・必要物品	・テキスト	・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学， 医学書院。						
	・必要物品							
参考文献								

授 業 概 要

科目名	精神看護方法Ⅰ	担当者	土屋幹夫 精神科看護師 加藤美和 後藤治美	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位
学修内容	精神機能の障害(精神疾患)を持つ人を看護する上で必要な基本的な考え方、精神科入院時の看護、治療に伴う看護の具体的方法を学ぶ。 また、精神機能に障害をもつ人が地域で生活するための支援について学ぶ。						
到達目標	① 精神科における看護援助を理解する。 ② 精神科の治療および回復段階に応じた看護援助について理解する。 ③ 精神科の日常生活における看護援助について理解する。 ④ 精神障害をもちながら地域で生活することを支える支援について理解する。						
授業計画	授業テーマ		方法(形成評価等を含む)				
授 業 計 画	後藤	1. 精神科に入院することの意味	講義				
		2. 患者の安全を守るためのリスクマネジメント					
	看護師	3. 精神科における治療と看護(薬物療法と看護)	講義				
		4. 精神科における治療と看護(電気けいれん療法時の看護)					
	土屋先生	5. 安全を守り回復を助ける看護	講義				
		6. 精神科における身体的ケア・睡眠の援助					
		7. 心的外傷とその看護					
	後藤	8. 地域で生活する精神障がい者を支えるための原則と社会資源について学ぶ	講義				
	加藤先生	9. 回復を支える様々なプログラムを学ぶ	講義・演習				
		10. 試験/講義					
成績評価	・ 方法 筆記試験 土屋先生30点 精神科看護師30点 後藤40点/100点 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 2年次の夏季休暇で、精神疾患および精神看護に関する用語集をまとめる。 ・ 留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 事前に講義内容に関連するテキストの部分を読み講義に臨んでください。 ② 毎回の講義終了後、振り返りレポート、または所感を記入してもらうことがあります。 ③ 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	・ テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術, メヂカルフレンド社. ・ 必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	精神看護方法Ⅱ	担当者	精神科看護師 松永深雪 後藤 治美	年次	2	間 単 時 位	30/30時間 1単位
学修内容	<p>精神機能の障害をもつ人をケアする上での原則と具体的な関わり方、また効果的な関係性を気づくために必要な知識・技術を学ぶ。さらに具体的な精神症状に応じた看護方法について学ぶ。</p> <p>事例を用いて、精神障害のある人を看護するために必要な思考力を養う。</p>						
到達目標	<p>① 患者-看護師関係を考え、効果的かつ治療的なコミュニケーションの方法を理解する。 ② 主な精神症状と症状に応じた看護方法を理解する。 ③ 既習の知識、看護過程の思考を活用し、精神障害をもつ人への看護を具体的に考えることができる。 ④ 精神障害をもつひとを看護する者に起こりうる問題とその対処方法を理解する。</p>						
授業計画	<p>後藤 1. ケアする上での原則 2. 精神看護におけるコミュニケーションのポイントと方法 3. 患者-看護師関係をアセスメントするための基礎知識 4. 患者を理解する視点と主な精神症状 看護師 5. 入院環境と看護の展開 6. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 7. 精神看護技術：症状マネジメント① 8. 精神看護技術：症状マネジメント② 9. 回復を助け、生きる力に着目した看護援助 松永先生 10. 精神の健康とリエゾン看護 後藤 11～13. 事例展開 14. 事例展開 発表会 15. 試験/プロセスレコードの意義と実際</p>						<p>方法（形成評価等を含む）</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>グループワーク</p> <p>講義</p>
成績評価	<p>・方法 筆記試験 精神科看護師40点 後藤20点 演習による成果物 40点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 2年次の夏季休暇で、精神疾患および精神看護に関する用語集をまとめる。 また、指定の用紙に、発達段階と発達課題についてまとめる。 ・留意点 ① 事前に講義内容に関連するテキストの部分を読み講義に臨んでください。 ② 毎回の講義終了後、振り返りレポート、または所感を記入してもらうことがあります。 ③ 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p style="text-align: center;">125</p>						

授 業 概 要

科目名	在宅看護概論Ⅰ	担当者	小林 有希子 朝比奈 結華 大井 陽江	年次	2	単 位 時 間	20/20時間 1単位
学 修 内 容	<p>少子高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場は施設から地域社会へとその範囲を広げている。本単元では、地域で生活しながら療養する人々とその家族背景や特徴を理解し、在宅看護の役割について学ぶ。また療養者が過ごしている場をつなぎ目ない看護の提供について学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<p>1)在宅看護に関わる現状を踏まえ、在宅看護の概念と目的を理解する。 2)在宅看護の対象を理解する。 3)在宅看護の特徴を理解する。 4)看護の継続性について考えることができる。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：在宅看護の概念(小林)						講義
	第2回：在宅看護の対象の特性①(小林)						講義
	第3回：在宅看護の対象の特性②(小林)						講義
	第4回：在宅看護の特徴①(小林)						講義・グループワーク 課題評価あり
	第5回：在宅看護の特徴②(小林)						講義・グループワーク 課題評価あり
	第6回：看護の継続性(大井)						講義
	第7回：在宅看護の歴史(朝比奈)						講義・グループワーク 課題評価あり
	第8回：在宅看護の安全性の確保(朝比奈)						講義・グループワーク 課題評価あり
	第9回：在宅看護と倫理(朝比奈)						講義・グループワーク 課題評価あり
	第10回：学科試験(朝比奈)						講義
成 績 評 価	<p>・方法:筆記試験(小林50%・朝比奈30%) 課題評価(小林10%・朝比奈10%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 ・留意点 在宅看護は施設看護と切り離して考えるのではなく、全ての領域の統合です。まずは在宅看護に興味を持つです。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院. ・必要物品 なし</p>						
参 考 文 献	<p>杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ. 厚生統計協会:厚生の指標臨時増刊号 国民衛生の動向. 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 杉本正子、眞船拓子編集: 看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に 取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ. 126</p>						

授 業 概 要

科目名	在宅看護概論Ⅱ	担当者	篠原彰 三輪一太 東野定律 池田真紀 朝比奈結華 吉田五百枝	年次	2	単 位 時 間	30/30時 間 1単位	
学 修 内 容	本単元では、在宅療養を継続する上で必要な社会資源や法的制度への理解を深め、地域を取り巻く保健・医療・福祉の連携を学ぶ。在宅看護活動が多岐の職種や機関と連携、協働を図りながら、地域包括ケアシステムの中でどのように機能しているのかについての理解を深める。そして、在宅医療の現状と課題、在宅医療を支えるサービスの現状、訪問看護導入までの流れや訪問看護の実際を学ぶことで看護の果たす役割を学ぶ。							
到 達 目 標	1) 社会資源と在宅看護に関わる法的制度を理解する。 2) 地域包括ケアについて理解する。 3) 地域包括ケアシステムでの保健・医療・福祉サービスの連携の在り方を理解する。 4) ネットワーク図の作成を通してケアマネジメントの考え方と連携について理解する。 5) 在宅医療・在宅療養の現状と課題が理解できる。 6) 訪問看護活動の実際を理解する。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回 在宅医療の現状と課題(篠原)						講義	レポートあり
	第2回 超高齢社会における医療の変化「治す医療」から「支える医療」へ(三輪)						講義	レポートあり
	第3回 在宅療養の現状と在宅医療(三輪)						講義	
	第4回 在宅医療・介護における地域包括ケアシステム(東野)						講義	
	第5回 訪問看護の対象者～導入の流れ[介護保険、医療保険の違い、アセスメントなど](池田)						講義	レポートあり
	第6回 訪問看護の手順と実際[災害対策、ターミナルケアなど](池田)						講義	
	第7回 地域の社会資源(吉田)						GW	
	第8回 社会資源と法的制度の活用(吉田)						GW発表・講義他者・評価あり	
	第9回 地域ネットワーク図(吉田)						講義	地域ネットワーク図の課題あり
	第10回 在宅看護における地域の考え方(朝比奈)						講義	
	第11回 保健・医療・福祉の動向(朝比奈)						講義	
	第12回 地域を取り巻く保健・医療・福祉サービス 地域で協働する関係職種の理解(朝比奈)						講義	
	第13回 ケアマネジメントの意義と目的 他職種連携の実際(朝比奈)						講義	
	第14回 居宅サービス計画の考え方(朝比奈)						講義	
	第15回 学科試験(朝比奈)							
成 績 評 価	・方法 ；筆記試験(朝比奈40%・吉田30%)・GW参加度と発表内容(10%) 第1・2・5・6回レポート提出状況(10%) ネットワーク図(10点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 春季休暇にて自分の住む地域の社会資源(保健・福祉)についてレポートとしてまとめる。 ・留意点 地域の社会資源と法的制度を具体的に結び付けながら、地域包括ケアの理解を深めていってほしい。							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 標美奈子他著：公衆衛生看護学概論,医学書院。 河原加代子他著：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 ・必要物品 第7回GW時にレポート作成で使用した社会資源の資料を持参すること。							
参 考 文 献	厚生省の指標臨時増刊号 国民衛生の動向, 厚生統計協会 訪問看護実務相談, 全国訪問看護協会(中央法規) 小島操子他：看護のコツと落とし穴 杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ 森元陽子：訪問看護という生き方, 幻冬舎 押川眞喜子監修：写真でわかる訪問看護, インターメディカ 杉本正子、眞船拓子編集： 看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ							

授業概要

科目名	在宅看護方法Ⅰ	担当者	小林 有希子 朝比奈 結華 大井 陽江 吉田 五百枝	年次	2	単 位 時 間	30/30時間 1単位	
学 修 内 容	在宅の場で看護援助を提供する場合、それぞれの生活スタイルを考慮し、療養者だけでなく家族を視野に入れた個別性のある援助が求められている。また、看護師は療養者の心身の状態を正しく把握し、適切な判断と処置を行っていく必要がある。そして、在宅での医療行為は、基本的に療養者、家族が行うことになるため、療養者や家族が安心して在宅療養生活を継続できるような教育・指導を行う必要がある。この単元では、基礎看護技術の原理原則を踏まえながら、日常生活を中心とした在宅看護技術と医療処置のある療養者・家族への在宅看護技術の基本を学ぶ。							
到 達 目 標	1)在宅看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2)在宅看護における療養者や家族への生活支援の方法と技術を理解する。 3)基礎看護技術を応用・工夫した対象に合った在宅看護技術が考、実践することができる。 4)医療処置のある在宅療養者・家族への援助が理解できる。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	《生活援助》							
	第1回 在宅看護の基本姿勢とコミュニケーション技術(小林)						講義・校内実習 課題評価あり	
	第2回 在宅における活動と休息の援助(朝比奈)						講義・校内実習 課題評価あり	
	第3～5回 在宅における清潔の援助(小林)						講義・GW・校内実習 課題評価あり	
	第6～7回 在宅における食事の援助(朝比奈)						講義・GW・校内実習 課題評価あり	
	第8～9回 在宅における排泄の援助(朝比奈)						講義・校内実習 課題評価あり	
	《医療処置管理の支援》							
	第10回 在宅における栄養管理とケア(大井)						講義	
	第11～12回 在宅における呼吸管理とケア(吉田)						講義・校内実習 帝人による説明・体験	
	第13回 在宅における排泄管理とケア(大井)						講義	
	第14回 在宅における褥瘡予防とケア(大井)						講義	
	第15回 試験 (小林)						講義	
成 績 評 価	・ 方法 :筆記試験(小林20%・朝比奈25%・吉田10%・大井15%) 課題評価と課題提出状況(小林15%・朝比奈15%) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 なし ・ 留意点 全ての領域を含んでいるため、今までの知識を用い、応用や工夫して楽しみながら考えていきましょう。							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院. 押川眞喜子監修:写真でわかる訪問看護, インターメディカ. ・ 必要物品 校内実習時に必要な物品を準備する。							
参 考 文 献	杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ニューヴェルヒロカワ. 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 三浦規他:ケアのこころシリーズ⑩在宅でのケア, インターメディカ. 角田直枝編集:スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社. 川村佐和子:組織ケア力を高める在宅ケア高度実践術, 日本看護協会出版社.							

授 業 概 要

科目名	在宅看護方法Ⅱ	担当者	小林 有希子 吉田 五百枝	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位
学 修 内 容	在宅療養者の背景は多様であり、年齢や疾病、障がいの程度も様々である。本單元では、在宅療養者の状態別の状況を理解し、各々の在宅看護の展開について学ぶ。						
到 達 目 標	1)在宅における主な状態別の看護が理解できる。 2)在宅における看護過程の視点・展開が理解できる。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 在宅看護の展開(小林) 感染症のある在宅療養者への看護						講義
	第2回 寝たきりの在宅療養者への看護(小林)						講義
	第3回 認知症高齢者の在宅療養者への看護(小林)						講義
	第4回 ターミナル期の在宅療養者への看護(小林)						講義
	第5回 難病の在宅療養者への看護(小林)						講義
	第6～9回 在宅における看護過程の展開(吉田)						第6回:個人ワークで「ネットワーク図」と「私の捉えた療養者」を作成 第7・8回:個人ワークのものを元にGW実施 第9回:発表
	第10回:講義 学科試験(吉田)						講義
成 績 評 価	・方法: 筆記試験(小林60%・吉田20%)・課題評価(「ネットワーク図」5%「私の捉えた療養者」5%) GWの参加状況と発表内容(10%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・留意点 在宅看護概論ⅠⅡと在宅看護方法Ⅰの授業内容を復習して講義に臨んでください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院						
参 考 文 献	杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編集: 看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版株式会社 角田直枝編集:スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社 129						

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (看護管理)	担当者	増田伊佐世	年次	3	時間 単 位	10/30時間 1単位
学修内容	看護管理の基本を理解する より良い看護を提供するための資源やしぐみについて知り、組織の一員として看護管理を考える						
到達目標	看護管理の基本がわかり、必要な資源、組織の一員としての看護管理への理解を述べることができる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	1. 看護管理とは 看護とマネジメント・看護ケアとマネジメント チーム医療における看護業務 2. 組織と看護 看護サービスのマネジメント・看護サービスの資源 3. マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップ コミュニケーション 4. 看護を取り巻く諸制度 看護職と専門性 医療制度 法律 5. 看護管理と医療安全			講義 講義 グループ演習 講義 グループ演習			
成績評価	・方法 筆記試験(40点分) 出席状況を加味する ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 参加型の授業となるよう心掛けるので、積極的に授業に取り組んでいただきたい						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 統合分野「看護管理」看護の統合と実践 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (医療安全・看護倫理)	担当者	竹田直子 浦田照美	年次	3	時間 単 位	20/30時間 1単位
学修内容	<p>これまでの安全管理では、インシデントや有害事象と呼ばれる、いわゆる「失敗事例」を分析の対象とし、それらを減らすことを目的としてきた。(Safety-I)近年は新しい医療安全へのアプローチとしてレジリエンス、エンジニアリング(Safety-II)が注目されている。双方のアプローチの特徴と違いを学び、医療安全について考える。また、医療安全の基盤には、看護職にふさわしい高い倫理観の確立が重要である。倫理的態度の要件である倫理的判断行動として、看護倫理の基本的知識を用いて事例を実際に考えてみる。</p>						
到達目標	<p>①医療安全の基本的知識を理解し、医療安全教育の必要性を認識するとともに、看護・医療事故予防に必要な能力・行動について考えることができる。 ②実際の場面や事例より、それぞれに具体的な対策を考えることができる。 ③看護倫理に関する基本的知識と倫理的意決定を行なうための枠組みを習得する。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回	専門職に求められる倫理	看護倫理とは	竹田		講義	
	第2回	看護師における倫理的判断に必要な知識	看護の倫理原則 看護実践上の倫理的概念	竹田		講義	
	第3回	実習場面で経験した、または感じた倫理上の課題の検討		竹田		個人ワーク グループワーク	
	第4回	グループワーク発表、まとめ		竹田		発表会・講義	
	第5回	医療安全と過失	看護事故の構造と防止対策 専門職としての責務と看護師の法的責任	竹田		講義	
	第6回	医療安全の基礎		浦田		講義	
	第7回	危険予知トレーニング		浦田		グループワーク	
	第8回	チームステップス・医療メディエーション		浦田		講義・ロールプレイ	
	第9回	実習場面での「ヒヤリハット体験」を共有化し、原因とプロセスから	医療安全を守るため守るための対策を考える	竹田		グループワーク	
	第10回	筆記試験	グループワークの発表	竹田		発表会	
	※講義予定は前後する可能性があるが、ご了承ください。						
成績評価	<p>・方法 筆記試験:医療安全・看護倫理に関する基本的な知識の確認 (浦田先生、竹田 各15点) レポート:テーマ「安心・安全な医療・看護を提供するため、どんな看護専門職を目指すか。自己の課題にどう対応するか」 (竹田 20点) 出席状況と授業参加態度:欠席しない、誠意と責任を持って参加する(10点)</p> <p>・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる レポート:テーマ説明時に評価規準を提示する 出席状況と参加態度:課題学習やグループワークに責任を持つ意味で欠席は減点対象とする 提出期日や時間を厳守する。遅れると減点処理 グループワークの参加状況も評価対象とする</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 「看護者の倫理綱領」をじっくり読んでくる。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ①上泉和子:系統看護学講座統合分野「看護管理」看護の統合と実践①, 医学書院 ②川村治子:系統看護学講座統合分野「医療安全」看護の統合と実践②, 医学書院 ③東京医科大学看護専門学校:「よくわかる看護者の倫理綱領」, 照林社 ・必要物品:グループワーク時に、学内の文房具以外が必要なら各自で用意</p>						
参考文献	<p>茂野香おる他:系統看護学講座専門分野I「看護学概論」基礎看護学①, 医学書院 相馬孝博著、日本医療マネジメント学会監修:ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド、メディカ出版 131</p>						

授 業 概 要

科目名	国際看護	担当者	戸塚規子	年次	3	間 単 時 位	8時間 ／1単位
学修内容	1. 国際看護学に係る主要概念と世界の主要な健康課題 2. 国際看護活動の支援を必要とする対象 3. 国際社会の共通課題 4. 国際看護活動の実際(推進する機関と人) 5. 異文化理解と看護活動						
到達目標	1. 国際看護学に係る主要概念がわかる 2. 諸外国の保健医療の現状と人々の健康について理解し、日本の現状との違いがわかる 3. 国際看護活動の実際と課題について事例を通して学ぶ 4. 異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の役割について考える。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回 国際看護学に係る主要概念と世界の主要な健康課題 1. 主要概念: 国際化, 国際看護学・国際保健学, 国際看護・異文化看護 2. 世界の主要な健康課題: 開発途上国とはどんな国か 世界の中のさまざまな格差(人口、経済、保健指標、疾病構造、栄養不良、医療職数)			ディスカッション パワーポイントに沿った口演 参考資料の提示と説明 質疑応答 ディスカッション			
	第2回 国際看護活動の支援を必要とする対象と国際社会の共通課題 1. 国際看護活動の支援を必要とする対象: 世界の健康課題からみた国際看護の必要性、健康に係る諸要因 2. 国際社会の共通課題: プレイマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標			映像学習 授業評価アンケートの実施			
	第3回 国際看護活動の実際(推進する人と機関) 1. 推進する機関: 国際協力のしくみ、国際協力を推進する機関 2. 推進する人: 日本の看護職者による国際協力活動、技術協力の実際						
	第4回 異文化理解と看護活動 1. 看護の国際協力に必要なとされる能力: 一般的な能力、開発途上国で必要とされる能力 2. 異文化看護の理論: 文化についてのアセスメント、異文化看護理論(文化ケア論)、異文化看護の視点						
成績評価	・ 方法 筆記テスト ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・国際化のすすむ社会における看護職の役割について考え、自らの課題を明確にする ・ 留意点 ・参考資料や関連記事・書籍の紹介						
テキスト・必要物品	・ テキスト 教科書は使わずレジユメを配布する。 ・ 必要物品 パソコン スライドプロジェクター DVD映写機						
参考文献	①国民衛生の動向最新版 ②国際看護学入門第1版第13刷 国際看護研究会編 医学書院2016 ③レイニンガー看護論-文化ケアの多様性と普遍性- M・M・レイニンガー著 稲岡文昭監訳 医学書院1995						


授 業 概 要

科目名	国際看護と災害看護 「災害看護」	担当者	櫻井 恵真	年次	3	間 単 時 位	時間 12/20 1単位
学修内容	災害は多くの人の安全な日常生活を脅かす。重傷者以外にも平時であれば健康を維持できる方も健康を脅かされることが少なくない。その中で医療は物質的・環境的・人的に不足した中で行うことになる。災害医療の目的は平時ならば死亡することはないであろう防ぎうる死を1人でも少なくすることである。そのために災害時の医療現場のみならず、被災者の健康を守るための看護を考える。						
到達目標	1) 災害による健康による健康への影響を理解する。 2) 災害時における医療活動を知る。 3) 災害時の看護活動を考える。						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 災害の種類 災害のメカニズム 災害による健康への影響 第2回 災害時における看護の役割と看護活動 第3回 災害サイクルと場に応じた看護活動 災害時の医療現場における看護活動 第4回 災害時に必要な医療看護技術 被災者の心理的特徴 第5回 被災者の心理的特徴と援助 第6回 試験						・講義 ・筆記試験
成績評価	・方法 筆記試験(60点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 近年、地震、豪雨など、多くの人的・物的被害を伴う災害が多くあります。東海地震が予知され、何時起きても不思議ではありません。この地域で働くためには被害に対する知識をもって、その時に備える意識が必要です。自分に何が出来るかを考えると共に、知識を持つことで多くの人命を救うことに結びつけてほしいと思います。また、皆さんには地域の方から看護学生という期待も担っています。必ず災害は起こります。災害を他人事と思わずに学習してほしいです。						
テキスト・必要物品	・テキスト ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 著者:黒田裕子 酒井明子 ・必要物品 ・三角布						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護研究	担当者	亀澤ますみ	年次	3	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学修内容	<p><研究の基礎> 専門職として看護における研究の必要性和看護研究の基礎知識を理解する。</p> <p><ケーススタディ> 看護研究の知識を土台として、ケーススタディの方法を演習を通して学ぶ。 自己の臨地実習をケーススタディにまとめる。</p>						
到達目標	<p><研究の基礎> 1、看護研究の意義と必要性を理解し、研究への興味関心を高める。 2、看護研究の分野と研究方法について知る。 3、文献学習の必要性について理解する。 4、看護研究におけるモラルと倫理的配慮について考える。</p> <p><ケーススタディ> 1、ケーススタディの意義と方法を学ぶ。 2、3年次領域別実習の中からエピソードを記述し振り返ることで、糸口となる問題を認識し科学的に論じる。 3、問題の科学的解明に向けて、適切な文献を基に考察する。 4、ケーススタディの一連を学び、収録・抄録を作成し、他者に伝えるよう発表する。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
成績評価	<p>・方法 ・筆記試験(30%:研究の基礎)ケーススタディ(70%:担当教員)</p> <p>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 臨地実習での自己の課題やエピソードなどケーススタディの基となる事を記述しておく。 研究論文に触れ、論文の構成や記述の方法について慣れておく。</p> <p>・留意点 ケーススタディは、自己の実践を振り返り、看護における自己の課題や改善点を明確にする事が求められるので、真摯に自己と対峙する姿勢が求められる。そのためにも、研究における倫理的な態度について理解を深めることが重要である。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 坂下玲子:系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 森田夏実他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p> <p>・必要物品 これまでの実習記録 開始後に指示する文献</p>						
参考文献	<p>・南 裕子編:看護における研究、日本看護協会出版会 ・川村佐和子編:ナースングラフィカ19 看護研究 メディカ出版</p>						

授 業 概 要

科目名	総合看護実践	担当者	竹田直子 吉田五百枝	年次	3	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>専門分野Ⅰ・Ⅱに学びをもとに、「医療安全と看護管理」の学びを統合し、安全・安楽という看護の原理・原則を踏まえながら、複数の患者の看護を考える。優先順位や経済性、個別性を考慮した計画・実践を行う演習を通して、多重課題の状況下での看護を学ぶ。また自己の看護実践力を評価することで看護師になる人としての自己の傾向・課題を明確にし、臨床での実践につなげていく。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の事例を理解し、複雑な状況下での看護を計画し実践する演習を通して、様々な優先順位の決定や、他者と協働すること、複数受け持ちでの倫理的配慮や安全性の確保について、リアルな現場をイメージしながら理解する。 2. 看護実践者としての自己の傾向に気づき、今後の課題を明確にする。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<p>前半(統合実習前) (吉田)</p> <p>第1～3回: 事例のリアルな設定</p> <p>第4～6回: 関連学習をしながら行動計画の立案</p> <p>後半(統合実習後) (竹田)</p> <p>第7回: 統合実習の振り返り 事例の設定(追加情報を加えて)</p> <p>第8～10回: 行動計画の修正 ロールプレイの計画(行動計画を基に)</p> <p>第11回: ロールプレイの発表</p> <p>第12、13回: 客観的臨床能力試験(OSCE)</p> <p>第14、15回: 凝縮ポートフォリオの発表</p>						<p>プロジェクト学習の方法で 学習を進めていきます</p> 
成 績 評 価	<p>・方法 OSCE80点（実技60点、リフレクション40点）、凝縮ポートフォリオ20点 合計100点の配点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点</p> <p>総合看護実践は、現場のリアルな状況をイメージし、事例の複雑な状況に対応した看護を、どのように判断し、行動していくかを演習を通して学んでいきます。総合看護実践前半⇒統合実習⇒総合看護実践後半、と一貫性（ストーリー）を持ち、プロジェクト学習という方法で学んでいきます。詳しいことにつきましては、授業前にオリエンテーションをします。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <p>統合科目であるため、今まで学習したことすべての積み重ねです。特に指定するテキストはありません。</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	接 遇	担 当 者	上藤 美紀代	年 次	1・2・3	単 位 時 間	各4時間
学 修 内 容	臨床において、患者・患者家族との信頼関係を築くことは最も重要であり、特に患者や患者家族と接する時間が一番多い看護師には信頼を得るための能力が求められる。その能力の一つとしてマナーや接遇について学び、身に付ける。「看護の基本＝患者の立場になって考え、行動することが大切」ということを再認識し、態度や言動で表すことができるようにスキルアップを図る。						
到 達 目 標	1年次：初めての実習を前に臨床に即した心構えやマナーを学ぶ。 2年次：本格的な実習に向けて、患者・患者家族とのコミュニケーションを学ぶ。 3年次：就職活動に向けて好印象を与える自己表現を学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	1年次 ・後期に入ってから新たな意気込みを発表する。 ・挨拶と返事 / 身だしなみ / 言葉遣い / 笑顔 / 歩き方 などのチェック (患者・患者家族との接し方や社会人としてのマナーを知る)			発表時の話し方や姿勢から、指導や助言すべき点を明らかにし、学生の能力に合わせたスキルアップをはかる(課題克服に努める)。			
	2年次 ・戴帽式を迎え、看護師への道を歩む決意を新たにしたところでその思いを恩師など尊敬する方に手紙で伝える(文章表現のチェック)。 ・実習事例のプリントをテキストとし、自分だったらどうするか、どう対応できるのか、グループディスカッションを通し、学びを深める。			手紙を書いてもらい、文章力・表現力を見る。敬語の使い方や 力、手紙の書き方を指導。実習事例については、クラスメイトとの意見交換を通して自信を持てるよう促す。			
	3年次 ・3年生になっての意気込みを発表する。 ・面接場面を想定し、働く意欲を好印象を与えながら伝える技(自己PR)を学ぶ。			1コマ目の授業で学生一人ひとりの課題を指摘し、2コマ目ではその課題を改善できるように工夫した発表(自己PR)に導く。			
成 績 評 価	・方法 なし ・基準 なし						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 授業時にプリントを配布する。 ・必要物品 筆記用具。 3年次は、面接場面を想定しての服装(ビジネススーツ、ヘアメイクなど)。						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	茶 道	担当者	青島 智子	年次	3	単 位 時 間	10時間 (12時間)
学 修 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道の意義と歴史を知る事で、理解を深める。 ・ 一服のお茶を通じて、人をおもいやる心と、感謝する心を養える様に学ぶ。 ・ 日常的なマナーを身につけ、立ち振るまい等、動作を美しく身につける。 ・ 静寂なひとときの中で、心の拠り所となり、自己を高めて、意識の啓発につなげる。 ・ 授業ごと季節を感じられ、日常歳時を知る事で、良識ある社会人となる様学ぶ。 ・ 茶道の実践を体験する。一服を味わう事で、茶味の変化を体験する。 						
到 達 目 標							
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：茶道について	日常生活の中で、茶道とのかかわり、立ち振る舞い、真行草のおじぎ、茶を点てて飲む、和菓子とお茶を味わう					
	第2回：茶道の歴史等	茶道の歴史を知ること。挨拶の仕方、抹茶の飲み方、菓子の取り方と頂き方。心静かに茶を飲む。					
	第3回：DVDで学ぶ	映像で、茶道を実感。抹茶を点てて、味わって飲む。和菓子の季節感と種類を知る。					
	第4回：茶室について	床の間の意味 → 軸の見方(読み方)、墨蹟について → 茶花について(見方と花材)。茶を点て他人に飲んで頂く。					
	第5回：炉開き	炉と風炉のちがい → 季節と茶道 → 炉開きのこと。席入りについて。茶道具について。全体のまとめ。					
	第6回：体験講座	未経験者に体験を中心にミニ講座を行い、茶道を経験してもらう。					
成 績 評 価	・方法	なし					
	・基準	なし					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	授業前後には掃除を行う。畳を拭く → 茶室は常に清潔にする。授業前には、手洗いで清潔にする。髪の毛の長い方は、ゴム等で結える等して受講する。担当委員の方は、ポット(熱い湯)2個、用意お願い致します。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・学校茶道用教本「裏千家茶道」(大学生用)〔財今日庵 発行〕各自1冊＝990円購入 ・DVD「お茶で豊かな心を」「お茶会に招かれ」〔千宗室 監修 ⇒ 講師が持参します 					
	・必要物品	畳に座るので、膝が丸出ししない様に長めのスカート着用。替え靴下(白ソックス)持参。					
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	華 道	担当者	紅林 幸子	年次	3	単 位 時 間	10時間
学 修 内 容	① 花のいのちを大切にしながら四季折々の花の扱い方を覚えましょう。 ② 基本的ないけ花の形を学びます。 ③ 授業の中で暮らしの歳時記をとり入れながら楽しみたいと思います。						
到 達 目 標							
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	いけ花の基本と道具について学ぶ		講義、実技 実技 実技 実技 実技			
	第2回	講義の日程に合わせて、それぞれの季節に合った花 でお稽古をします。四季折々の歳時記を取り入れて 楽しみながら行います。					
	第3回						
	第4回						
	第5回						
成 績 評 価	・方法	なし					
	・基準	なし					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	四季を通して楽しいいけばなの出会いをして下さい。いけばなは心の栄養剤です。きっと、どこかでお役に立つことと思います。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト						
	・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	テニス	担当者	石川 節雄 他	年次	3	単位 時間	10時間
学修内容	ラケットの握り方からゲームまで行います。楽しく、運動不足解消に努めます。						
到達目標							
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回～5回 経験者コースは普通のテニスボール、未経験者コースはグリーンボールを使用して、2名のコーチで指導します。各時間終了前(10～15分)、楽しくミニゲームを行います。準備体操を念入りに、ケガのないように努めます。			実技			
成績評価	・方法 なし ・基準 なし						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 楽しく、けがのない様にやりましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・必要物品 運動のできる服装、シューズ、タオル、水分補給用ボトル						
参考文献							